議員全員協議会会議録

(令和7年5月20日)

愛南町議会

愛南町議会議員全員協議会会議録

本日の会議 令和7年5月20日(火)
招集場所 大会議室

出席議員

議長	吉田茂生	副議長	嘉喜山茂
議員	山本美佐	議員	田中純樹
議員	岡雄次	議員	尾崎恵一
議員	池田栄次	議員	石川秀夫
議員	金繁典子	議員	鷹野正志
議員	原田達也	議員	濱本元通
議員	吉村直城		

欠席議員

議員 中野光博

職務のため出席した者

議会事務局長	土居章二	主幹	尾川美保
係長	山口昌		

説明のため出席した者

町長	中村維伯		
副町長	木原荘二		
教育長	中尾茂樹		
(総務課)			
課長	濱哲也	主幹	小松一恵
(企画財政課)			
課長	清水雅人		
(企画財政課政策推進室)			
室長	桑原真也		
(税務課)			
課長	山本光伸		
(建設課)			
課長	吉村克己	課長補佐	楠葉哲也
(商工観光課)			
課長	兵頭重徳	主幹	大森安洋
(学校教育課)			
課長	坂本一利	課長補佐	二神裕暁
(生涯学習課)			
課長	織田浩史		

(御荘B & G海洋センター)

所長 清水良一

(消防本部防災対策課)

課長 上田耕平 専門員 清家寛大

主査 小川寛子

(御荘支所)

支所長 宮本良也 主幹 田村智之

本日の議員全員協議会に付した案件

【執行部報告】

- 1 避難行動要支援者の個人情報の提供等に関する条例の制定について
- 2 御荘文化センター改修計画について
- 3 御荘B & G海洋センター プール棟塗装替等改修工事について
- 4 指定管理施設（温浴施設）の原油価格・物価高騰に伴う指定管理料の追加について
- 5 観光施設の再編について
- 6 町道観自在寺線道路改良事業に伴う物件補償費等について
- 7 地域資源体験・海学習事業について
- 8 あいなんBOOKピクニック（本屋遠足）事業について
- 9 令和6年度に実施した「新たな経済に向けた給付金・定額減税一体措置」の所得額確定に伴う不足額給付について
- 10 町長と話そう「愛南ほっとミーティング」の開催について
- 11 「あいなん未来議会2025」の開催について

【議会協議】

- 1 重要案件抽出の協議について
- 2 議会運営に関する申合せ事項の確認について
- 3 議員派遣について
- 4 その他

開 会 9時00分

閉 会 11時50分

○嘉喜山副議長 皆さん、おはようございます。ただいまから議員全員協議会を始めたいと思います。

まず初めに、議長より御挨拶をいただきます。

○吉田議長 皆さん、おはようございます。初めての今日、全員協議会になりますので、皆さんのほうでしっかりと議論していただいて、定例議会に上程するものが8項目、9項目ありますので、この場で、6月議会のほうが円滑に進められるように、この場で闊達な意見を交換していただいて、スムーズな6月の定例議会の運営に御協力をいただければと思います。

それから今日、新人の方3名いらっしゃいますので、少し分からないことがあれば、疑問視することなく聞いていただいて、忌憚のない意見を言ってください。

私自身も若葉マークの議長でございますので、進行が滞ることがあるかもしれません。そのときにはスムーズな運営を皆さんのほうに御協力をいただきたいということで、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

○嘉喜山副議長 続きまして、町長より御挨拶をいただきます。

○中村町長 皆さん、おはようございます。令和7年第9回議員全員協議会の開催を依頼いたしましたところ、吉田議長には招集をいただき、また、議員の皆様におかれましては、何かと御多忙の中、御出席をいただき誠にありがとうございます。

春先から長引く少雨によりまして、3月下旬には大久保山ダムの貯水率が一時55%程度まで落ち込み、飲料水及び農業用水等に係る水不足が心配されておりました。町では、防災行政無線等で町民の皆様には節水の協力依頼を行ってきたところですが、梅雨時期を前に、4月下旬から5月上旬にかけての降雨により、5月5日にはダムの貯水率が100%に回復し、一安心をしているところです。

さて、本日は6月定例議会に提案予定の案件など、11件の事前説明や報告を担当課長等からさせていただきますので、御意見等よろしく願いをいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○嘉喜山副議長 それでは、ここからは議長に議事進行をお願いいたします。

○吉田議長 よろしく願いいたします。

今回、6月定例部分については二重線、2番、3番、4番、5番、6番、7番、8番、9番、これが上程される、執行部からの報告となっております。

それでは、早速、執行部のほうからの説明を求めます。

最初に、避難行動要支援者の個人情報の提供等に関する条例の制定について。

すみません、一つ訂正がございます。今日、中野議員のほうから欠席届が出ておりますので、承認をいたしましたので、御了承いただければと思います。

すみません、改めまして、避難行動要支援者の個人情報の提供等に関する条例の制定について、上田防災対策課長のほうからお願いいたします。

上田課長。

○上田防災対策課長 防災対策課から、避難行動要支援者の個人情報の提供等に関する条例の制定について御説明いたします。

資料1を御覧ください。

1の政策の発生源・提案に至るまでの経緯ですが、災害対策基本法の規定により、行政区別避難行動要支援者リストの作成は義務づけ、避難支援プラン個別計画の作成は努力義務とされています。

個別計画の作成には、避難支援等関係者の協力が不可欠であり、現在は、この支援関係者に情報提供の同意が得られた人のみ個別計画の作成を行っております。

その理由としまして、法の規定により名簿情報及び個別計画の情報は、支援関係者に提供するものとしていますが、ただし、条例で定めている場合を除き、本人の同意が得られない場合

は、この限りでないとされています。

なお、法の規定により、災害が発生し、または発生するおそれがある場合は、情報提供できるものとされております。

このことから、2の事業の概要ですが、個別計画の作成を推進し、災害発生時に備えるため、本人の同意を得なくても、名簿情報を支援関係者に情報提供できるよう条例を制定するものです。

2ページを御覧ください。

こちらが名簿情報の様式になります。この様式の青枠で囲んでいます情報（氏名、性別、生年月日、年齢、住所、電話番号）が、名簿情報になります。この内容を本人の同意がなくても支援関係者に提供できるように条例を制定するものです。

この情報を基に、避難支援等実施者・安否確認者などの内容を支援関係者と協力して作成していくというものになります。

3ページを御覧ください。

条例案を掲載しています。

第2条に名簿情報を提供する関係者の範囲を、第3条に法の規定の定めによる情報提供の特例規定を、第4条以下は情報の取扱いについて規定しています。

1ページにお戻りください。

今後の予定としまして、6月にパブリックコメントを実施し、9月の定例会に議案を上程する予定としております。

3の総合計画との整合性ですが、施策4-2「防災・減災対策の推進」、基本事業2「地域防災力の強化」によるものです。

4の他の自治体の類似する政策との比較検討ですが、松山市、八幡浜市、宇和島市の例を参考としております。

5の町民参加の有無とその内容ですが、個別計画の作成において支援関係者の参加が見込まれます。

6の関係ある法令及び条例ですが、災害対策基本法（第4章第3節避難行動要支援者名簿及び個別避難計画の作成等）第49条の10から第49条の17までの規定、また、法令ではありませんが、愛南町避難行動要支援者避難支援全体計画により実施するものです。

7の事業費・財源措置及び8の将来にわたるコスト計算についてですが、こちらはいずれもありません。

以上、避難行動要支援者の個人情報の提供等に関する条例の制定についての説明を終わります。

○吉田議長 説明が終わりました。

何か質疑ありますでしょうか。

岡議員。

○岡議員 この個別支援計画っていうのは、既に作成されているというふうに私も以前の職場の中で分かっているんですけど、以前、私の地区の中で防災対策課と話をすることがありまして、そのやっぱり、対象者に関してどう地域で支援していくのかっていうところがどうなのかっていうところで、やっぱり自主防災組織にどれだけ情報が下りてきて、そこの地域の自主防災組織がどれだけ動けるのかっていう点検をしていなかったら、計画は立てました、私の地区は特に海、海岸なんで、もう時間がないというところもあったりして、それをどう支援していくのかっていうところを地域との話し合いは必要ではないかということは話をしたんですけど、計画を立てても支援ができない可能性もあるしっていうところまでちょっと話をしたことあるんですけど、そういうところも少し、せっかくこういう機会があるので、そこまでやっぱり、地域あってのやっぱり支援ができるのではないかというふうに思いますので、ちょっとその辺

も考えていただければと思います。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 今現在は同意を得られた方のみ個別計画を作成しているという状況になりますので、地域を巻き込むのがなかなか、この人は情報提供できますけど、この人もいるとかいう話で、ちょっとなかなか話ができにくい状態でした。

でも今度この条例を制定することによりまして、この地域にはこれだけの方が要支援者として提供できれば、その地域の自主防災組織ですとか、民生委員の方に、一体的に計画が策定できて、またその、実際の本当に支援するという場面についても、訓練等に活用できるのではないかと考えております。

(発言する者あり)

○吉田議長 挙手をしてください。

岡議員。

○岡議員 地域の自主防災組織そのものがどう考えるかっていうところもあると思うので、やっぱり地域の防災力を考えた上で、やっぱり、全然できる、支援ができるところできないところが地区もあると思いますので、その辺もやっぱり、地域に関してもやっぱりこういう計画が出てくるので、その辺はやっぱり地域でも考えてくれっていうふうな、進んでおるところと進んでいないところがあると思うので、その防災に関しては、やっぱりその辺の、地域に関してのやっぱり呼びかけというか、必要ではないかなというふうに私は思います。

○吉田議長 よろしいですか。

ほかに何か質疑ありますでしょうか。

尾崎議員。

○尾崎議員 今回作成が義務づけされました、この行政区別避難行動要支援者リストですね、これについては具体的にいつ頃までに完成させる予定であるのか、この点についてお伺いいたします。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 こちらのリストにつきましては、こちらの情報で既に作成しておりますので、リストにつきましては100%できています。個別計画についてがまだできていないというところでは。

○吉田議長 尾崎議員。

○尾崎議員 よく分かりました。そしたら、この避難行動要支援者リストの中に緊急度というのがあるんですけども、これについてはどのような形の表示になるのでしょうか。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 対象者の中に、津波、海岸に近い方、また山沿いの方、いろいろ条件が違ふと思います、そういった対応が必要な、緊急度が高い方が緊急度が高い方ということになります。

○吉田議長 尾崎議員。

○尾崎議員 A・B・Cとか、5段階の何段階とか、そういう形に、具体的にどんな表示になるんですか。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 緊急度の高い方を高、緊急度の低い方を中という形でランクづけはしています。

○吉田議長 ほかに質疑ございますか。

山本議員。

○山本議員 こちらの支援関係者に提供っていうところがあるんですけど、支援関係者っていうのは具体的にどんな人を指すんですか。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 資料1を御覧いただいて、1の政策の発生源の4行目の辺りに、避難支援等関係者の、括弧書きであると思いますが、消防関係、警察関係、民生委員、社会福祉協議会、自主防災組織その他の避難支援等実施に携わる方を関係者としております。

○吉田議長 よろしいですか。

ほかに。

石川議員。

○石川議員 これ条例で強制的に——強制的っていう言い方がちょっとふさわしいかどうか分かりませんが、今までこの同意を得るために、要支援者がどれぐらいいらっしゃる、どれぐらい同意をいただいたのかというのと、この同意を得るための努力を、どういう形で、どういうふうな形で進めてきたのか、そこをちょっと教えてください。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 令和6年度末におきまして、まずこの対象者が2,129名おられます。そのうち同意をいただいている方が1,610名という方になります。

同意を得る方法ですが、対象者に郵送において、避難支援等の計画を策定することについての、まず通知を行っております。その中で、作成について情報提供が必要ですので、情報提供に同意されますかという内容の、返信用のアンケートを同封しておりますので、それで同意をいただいた方に今現在、作成を進めているという状況です。

○吉田議長 石川議員。

○石川議員 それは1回か、何回ぐらいそれ、同意を得られた方がかなりの数いらっしゃる、そうあんまり心配はしていないんですけど、同意されなかった人について、何回ぐらい再送されたり、どういう状態で同意を求めていったかっていう経過もちょっと教えていただきたいんですけど。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 約3年ぐらいをめぐりもう一度、再通知をさせていただいているという状況です。

○吉田議長 金繁議員。

○金繁議員 要支援者の避難計画が前に具体的に進み出してよかったなと思うんですけども、こういう条例も必要だとは思いますが、これ、こういうことを進めますっていうことをある程度理解していただいてこそ、同意してくれる人も増えますし、今後、具体的にこういう計画をつくって、災害が実際に起きたときにはこういうふうにかかれますっていう、具体像というか、をある程度出されたほうがいいんじゃないかと思うんですけども、その辺をどうお考えかという点が一つと、それから、これまで同僚議員も私も、この要支援者の個別計画については一般質問もしてきました。その都度、各議員が、今現状どうなっているんですかと、今も石川議員がおっしゃったように、今どのぐらいの同意が得られているんですかっていう状況を、個別に防災対策課に聞きに行くというような状況です。

できれば今どの時点にいるのか、今考えていらっしゃる、町が考えていらっしゃるあるべき姿のところまでのロードマップというか、タイムスケジュールを、ざっくりでもいいので出していただいたら、この後こういうふうになっていくんだなど。今日のところはパブリックコメント、定例会に条例を上程するということが書いてあるんですけど、その先、どういうふうに進めていきますよっていうことを、大ざっぱでもいいので出していただけると、みんな共有できて、町民の人にもお話しできると思うので、その辺もお願いしたいんですがいかがでしょうか。

以上、2点お願いします。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 まず1点目の町民への周知というところなんです、確かにまだまだ理解し

ていただいていないという状況があるかと思しますので、広報等を通じて、いま一度、個別避難計画とはこういうもので、こういった支援を行っていきますというような広報を、広報を通じてまず行っていきたくて考えております。

それから、2点目の資料につきましては、後ほど資料を提供させていただきたいと思っております。
以上です。

○吉田議長 よろしいですか。

石川議員。

○石川議員 これパブリックコメントで9月に定例会に上程ということですが、この同意をいただいていない方に、こういう形で進めていきますよということ、私は広報よりも個別に出されたほうが、同意されていない方にとっても、こういう形で進められるんだということ、理解は深まると思っておりますから、私はこの間に、この対象の同意されていない方、この方に郵送でもいいので、この進め方について通知するほうが私はいいと思っておりますが、いかがですか。

○吉田議長 上田防災対策課長。

○上田防災対策課長 まず、今この計画を策定するには、防災対策課だけではなかなか策定できませんので、介護のヘルパーさんとか、社協の力をお借りして今運営しているところです。

先ほど石川議員からおっしゃられました、皆様へのまず理解についてなんですが、まず条例を制定した後に、対象者にいま一度通知をしたいと考えております。その中には当然、今後、条例が制定されましたのでこういうふうに、強制的とは言えないですが取りあえず情報提供できるようになりますと。ただし、どうしても嫌だという方は一定数おられると思っております、その方についてはもうそういうことですので、その方についての情報は提供しないようにしようかとは考えております。

以上です。

○吉田議長 ほかに質疑ありますか。

金繁議員。

○金繁議員 すみません、繰り返しになるんですけど、実際、この避難のために情報を、個人情報を聞き出そうと区長さんと社協か職員の方がよく分からないらしいんですけども、いらっしゃって、個人情報を聞かれて怖かったっていう、それで何のためにそれを聞いているのかも説明がなかったという声を実際に過去聞いているので、こういう条例をつくりますっていう以前に、なぜこの条例をつくるのか、町が目指している皆さんの命を救うっていうことのためにこういうことをしたいんです、だから同意してください、同意がされない場合にもやむを得ず条例でいただくことになるっていうこともきっちりやっぱり説明していただきたいし、それはその郵送でぱっと送って理解なかなかにしてもらえないかと思っております、そこをやっぱり丁寧な理解を得るっていうことが必要じゃないかと思っております。御検討ください。すみません、繰り返しになりますが。

○吉田議長 回答はよろしいですか。金繁議員、回答はよろしいですか。

○金繁議員 はい。

○吉田議長 ほかに何か質疑ございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 なければ1番については終了いたします。

続きまして、2、御荘文化センター改修計画について、執行部の説明を求めます。

宮本御荘支所長。

○宮本御荘支所長 御荘支所から、御荘文化センター改修計画について御説明いたします。

1、政策の発生源・提案に至るまでの経緯につきまして。

平成3年に竣工した御荘文化センターは、築30年以上が経過し、施設の維持のため毎年度改修工事等を行っている状況です。令和6年度に文化センター長寿命化対策検討資料作成業務

委託により、今後の施設整備・改修等を計画的に行い、施設の長寿命化を図ることとしております。

2、事業の概要につきまして。

(1) 令和元年度以降の改修工事及び修繕料について。

ホール舞台関係の工事や、令和3年度から4年度にかけて継続費として空調設備の改修など、6年間で1億8,861万6,000円の工事、1,470万4,000円の修繕を行っております。

(2) 令和7年度以降の主な改修工事計画について。

令和6年度に実施した長寿命化対策検討資料にある建築士等の意見を踏まえ、まずは利用者の安心・安全のために必要とされる改修を最優先とし、施設整備に優先順位をつけて計画案を立てております。

町内唯一の施設であります文化センターの工事中の休館期間や、使用頻度や設備の現状、そして町の財政状況を確認しながら整備に取り組みたいと考えております。

今後の主な改修工事は、ホールの天井及び照明、舞台音響反射板等、舞台関連の工事を優先しております。

2ページを御覧ください。

3、総合計画との整合性について。

政策5「豊かな心と文化を育むためのひとづくり」、施策「生涯学習の充実」、基本事業「生涯学習施設の適正管理」に基づくものです。

4、他の自治体の類似する政策との比較検討について。

八幡浜市の文化会館であります「ゆめみかん」は、平成10年に開館しておりますが、令和7年度から8年度にかけて債務負担行為で大規模改修事業費を13億9,747万円で行う予定で、令和7年度予算に8億3,849万円を計上しております。工事に8億2,083万円、監理業務に1,766万円、財源は過疎対策事業債です。

主な内容は、老朽化した機材や空調・音響設備の改修及び照明のLED化となっております。

5、町民参加の有無とその内容、及び6、関係ある法令及び条例については、該当はありません。

7、事業費（内訳）・財源措置について。

①今回、令和7年度事業費として6月補正に、実施設計業務として418万円を計上する予定としております。内訳は、天井・ホール照明改修319万円、消防防災設備機器改修に99万円、財源措置は一般財源ですが緊急防災・減災事業債等の活用を見込んでおります。

②さらに実施設計の成果に基づき事業費の精査を行いますが、令和7年度事業費、予定ですけれども、としてホール天井及び照明等改修に8,000万円を予定しております。財源措置は一般財源、緊急防災・減災事業債等の活用を見込んでおります。また、令和8年度事業費の予定といたしましては、消防防災受信機等改修に1,050万円を計上予定しております。

8、将来にわたるコスト計算について。

ホール照明のLED化による削減効果につきましては、現在、ホール天井に設置している500ワット型35基、150W型16基のハロゲンダウンライトを改修工事によりましてLEDに更新することで、後継となるLEDダウンライトの消費電力は、それぞれ42.5ワット、12.4ワットがメーカーの推奨機器の一例にありますので、LED化することにより電力消費量を約10分の1まで削減する効果が期待できるものと想定しております。

以上で、御荘文化センター改修についての御説明を終わります。

○吉田議長 説明が終わりました。

質疑は何かございますか。

石川議員。

○石川議員 御荘文化センターの今の経過年数ですよね、どれぐらいたっておるんですか。

○吉田議長 宮本御荘支所長。

○宮本御荘支所長 平成3年に竣工しておりますので、34年目になります。

○吉田議長 ほかに質疑ございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 なければ終わります。

続きまして、御荘B&G海洋センタープール棟塗装替等改修工事について、執行部の説明を求めます。

清水御荘B&G海洋センター所長。

○清水御荘B&G海洋センター所長 御荘B&G海洋センターから、プール棟塗装替等改修工事について御説明いたします。

資料の3をお願いします。

まず、1の政策の発生源・提案に至るまでの経緯についてですが、当海洋センターは平成5年6月にオープンし、32年が経過しており、今回、個別施設計画に基づく施設の適正な維持管理を行うため、B&G財団の助成金を活用した改修工事を予定しております。

これまでプール棟に関連した大規模改修工事として、平成18年度にプール歩行者専用レーン手すり設置、暖房用ファンコンベクター取替え、上屋膜体取替え工事を、平成24年度にはプール棟屋根固定化、ボイラー・ろ過器取替え工事を行っており、計2件の工事費総額1億801万円に対し、B&G財団の修繕助成金3,000万円を活用した改修実績があります。

経緯についてですが、まず、個別施設計画を3年間先送りした理由として、令和4年度時点ではプール棟の劣化状況や不具合箇所等、現状を把握した上で時期尚早と判断し、改修時期の見直しを行いました。

計画に当たり、町財政負担軽減のため、B&G財団の助成金(15年連続特A評価優遇措置：助成限度額5,000万円、助成率80%)を活用した改修工事として、昨年度より準備を進め、昨年5月に発注した実施設計を基に、8月末を提出期限とするB&G修繕助成金の申請を行いました。

また、今年1月に、当海洋センターが四国では初となる20年連続特A評価を獲得してB&G財団より表彰を受け、全国457センターのうち5か所のみを受賞となった実績が助成金採択の後押しとなることを期待し、今回の申請としました。

その結果、3月4日付で、工事金額税抜き6,850万円に対し、助成金額5,000万円の内示通知を受け、4月6日付で正式に修繕助成決定通知をいただきましたので、今回、B&G財団の助成金を活用した改修工事として着手していきたいと考えております。

次に、2の事業の概要については、添付図面により説明しますので、2ページの全体配置図を御覧ください。

今回の改修箇所は、赤枠で囲んでいるプール棟(平家建て鉄骨造)及び更衣室からプールへの連絡通路、フリーフロア部分を含む約1,300平米です。

3ページの平面図から5ページの通路断面参考図までは、プール棟内部と外部・連絡通路・フリーフロアの塗装及び、プールサイド塩ビシート、トップライト10か所などの劣化部分を改修します。

6ページは照明設備改修として、プール棟20台及び連絡通路4台の照明器具LED化を、7ページは空調設備改修として、プール棟内部の暖房用ファンコンベクター26台及び連絡通路の赤外線暖房機4台の取替えを、8ページは機械設備改修として、ろ過装置のろ材交換及び薬剤注入ポンプ取替え等、既存施設の改修となります。

1ページにお戻りください。

3の総合計画との整合性から、6の関係ある法令及び条例については、資料を御確認ください。

い。

7の事業費（内訳）・財源措置については、改修工事に係る経費として、歳入ではB&G財団助成金5,000万円を、歳出では本工事費7,535万円と監理委託料132万円の総額7,667万円を、6月補正予算に計上させていただきたいと考えております。

8の将来にわたるコスト計算については、個別施設事業実施計画に基づき改修していきます。最後に、今後のスケジュールとして、6月補正予算成立を前提として、改修工事に係る入札を行い、その後、B&G財団との修繕助成決定書授与式を執り行い、9月定例議会に上程し、議会承認後、契約事務を済ませ、工事に着手していく予定です。

なお、工期は4か月間を予定しております。

以上、御荘B&G海洋センタープール棟塗装替等改修工事についての説明といたします。

○吉田議長 説明が終わりました。

質疑はございますか。

（「なし」と言う者あり）

○吉田議長 質疑がないようですので、これで終了いたします。

続きまして、4番、指定管理施設（温浴施設）の原油価格・物価高騰に伴う指定管理料の追加について、執行部の説明を求めます。

兵頭商工観光課長。

○兵頭商工観光課長 商工観光課です。指定管理施設（温浴施設）の原油価格・物価高騰に伴う指定管理料の追加について説明いたします。

資料4へお進みます。

1、政策の発生源・提案に至るまでの経緯です。

原油価格高騰等により、電気・ガス料金及び燃料費などの高騰が、過去に類を見ないほどの上昇が続いております。このため、指定管理施設、特にゆらり内海、山出憩いの里温泉においては、施設運営に大きな影響を受けております。

2、事業の概要です。

今後も安定した施設運営を行い、町民や利用者サービスへの支障を回避するため、前年度に引き続き指定管理料を追加します。

3、総合計画との整合性は、活力ある産業を育てるまちづくりです。

4、他の自治体の類似する政策との比較検討は、宇和島市の祓川温泉指定管理委託料が年間210万円から350万円に増額しております。

5、町民参加の有無とその内容は、ありません。

6、関係ある法令及び条例についてですが、総務省自治行政局より、「原材料価格、エネルギーコスト等の上昇に係る指定管理者制度の運用の留意点について」の通知がございました。令和4年10月11日付です。

7、事業費（内訳）・財源措置につきましては、下記の算出のとおりです。

燃料費、電気料、ガス、それを4か年の平均で算出しまして、前年度、6年度と差額を算出しまして、その合計額となっております。

ゆらり内海は478万円、山出憩いの里温泉が302万8,000円です。

8、将来にわたるコスト計算は、ありません。

以上が、指定管理施設（温浴施設）の原油価格・物価高騰に伴う指定管理料の追加についての説明です。

以上です。

○吉田議長 説明が終わりました。

質疑はございますか。

金繁議員。

○金繁議員 去年もこれ、年間の指定管理料にプラスしてこの燃料費・電気・ガス代上がっているのということで支払いをしているんですが、指定管理、愛南町にも、ほかにもあると思うんですけど、MICなども含み、去年も質疑させていただいたんですが、まずその点について、1の経緯にも関連するんですけど、どこの事業者さんも、民間も含め——民間というか指定管理以外のところも含め、これ原油価格高騰、燃料だけじゃなくて電気・ガス高騰して、大変なことになっているんですけど、なので公平の観点からお聞きしますが、これ経緯は、この事業者さんたちからの申出があったんですかね。それとも、去年の話になるかもしれないんですけど、それとも町のほうから働きかけをしていたのか、そのときにはほかの指定管理に対しても働きかけをしたのかという点が1点目です。

それから2点目は、5番の町民参加の有無とその内容なんですけれども、これも過去数年にわたり、この温泉施設が町内に3つもあって、将来的にはもうこれ何とか、減らすなりしないといけないんじゃないかと、この前の議会でも先輩議員おっしゃっていましたが、もうその前からもずっと議会で指摘されていることですが、それについて、もうそろそろ、きちんと検討を、町長も前向きに検討していただけるような答弁はたしかされたと思うんですけど、有識者も含み、やっぱり町民との話し合いを始めるべきときではないかと思うんですけど、この5についても今のお考えをお聞かせください。

以上、2点お願いします。

○吉田議長 兵頭商工観光課長。

○兵頭商工観光課長 この経緯の関係なんですけど、この件につきましては、燃油高騰が叫ばれてきたときに、その主たる燃料費を使って、温浴施設に大きな影響があるということで、町内のこの2つの施設だけこちらのほうから話をしました。

ほかの自治体の状況も確認しまして、温浴施設主体というふうな形もありましたので、町からの形で、温浴施設2か所という形で今回の設定をさせていただきました。

それと、住民参画の有無につきましては、この後報告させていただくんですが、観光施設の見直しというところで、先ほど金繁議員がおっしゃられた、もうそろそろ考えるべきではないかと、有識者を入れて検討すべきという話につきましては、この次のところで報告をさせていただきますので、またよろしく、そちらのほうでお願いします。

以上です。

○吉田議長 ほかに質疑ありませんか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 ないようですので、4番を終了いたします。

引き続きまして、5番、観光施設の再編について、執行部の説明を求めます。

兵頭商工観光課長。

○兵頭商工観光課長 観光施設の再編について説明をします。

資料5をお願いします。

1、政策の発生源・提案に至るまでの経緯です。

観光施設については、合併前に整備されたものが数多く、これらの施設の中には、建築後30年以上経過する施設が多く存在しています。これから施設の建て替えや大規模改修には多額の経費が見込まれ、全ての施設を同じ規模で維持するのは困難な状況にあり、年々補修——修繕費も増額傾向にあります。このため、廃止・統合を含めた再編の検討を進める必要があります。

2、事業の概要です。

今後の観光施設の在り方をテーマとして、観光施設をどうしていきたいのか、住民参加型で議論をし、再編に向けた合意形成を図ります。

3、総合計画との整合性は、活力ある産業を育てるまちづくりです。

4、他の自治体の類似する政策との比較検討です。

奈良県田原本町が、住民協議会「自分ごと化協議会」を参考にしております。田原本町では、公共施設の再編に当たって、行政が一方的に進めるのではなく、住民の理解を得る必要があることから、無作為に抽出した住民をメンバーとした住民協議会を立ち上げ、公共施設の再編を行いました。

5、町民参加の有無とその内容です。

田原本町と同様に、無作為に抽出した住民をメンバーとした観光施設検討住民協議会を立ち上げ、観光施設の廃止・統合を含めた抜本的な方針を決定していきたいと考えております。

6、関係ある法令及び条例は、ありません。

7、事業費（内訳）・財源措置は、一般社団法人構想日本観光施設検討会支援業務委託費550万円（随意契約）の予定です。財源は、新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）を充当予定です。

8、将来にわたるコスト計算は、ありません。

以上が、観光施設の再編についての説明です。

以上です。

○吉田議長 説明が終わりました。

何か質疑がございますか。

金繁議員。

○金繁議員 これ、自分ごと会議が始まるということで非常にいいと思います。

ただこれは商工観光課が中心になってやられるということなんですかね。それとも複数の課、企画財政とかいろんな課が協力してやることになるのでしょうか。

○吉田議長 兵頭商工観光課長。

○兵頭商工観光課長 今回は観光施設の再編ということなので、観光施設、いろんな、町内に点在しておりますので、その施設の検討ということで、取りまとめを商工観光課がやると。内海地域の須ノ川公園等については内海支所、それから一本松のほうについては、あけぼの荘とかについては一本松支所、それから海の観光船の事業につきましては西海支所というような形で、それぞれの担当をしております担当課とも連携をしながら、再編に向けた協議を進めたいと考えております。

以上です。

○吉田議長 金繁議員。

○金繁議員 観光施設ということで、温泉とかは衛生施設って言われることもあるんですけども、商工観光課の予算書の中に入っている施設に限って行われるということによろしいですかね。

観光施設に限らず、もちろん観光に力を入れていかれるということなんで、優先順位ではあると思うんですけども、やっぱり町長にお聞きしますけど、愛南町の公共施設が非常に多くて、予算の中でもやっぱり大きな割合を占めていて、肝腎のその事業費のほうにお金を回すことができないというような状況になっているかと思えます。ですので、観光施設に限らず、ほかの施設も統合したり廃止したりっていうことを急遽行わないと、将来的に大変なことになるんじゃないかなと。もちろん町長も危惧されていると思うんですが、その点について、観光施設についてはどのようにお考えか、この場で少しお考えをお聞かせ願えたらと思います。お願いします。

○吉田議長 関連になりますが、答えられますでしょうか。

中村町長。

○中村町長 お答えします。

当然、愛南町、5つの町そして村が合併したということもありまして、たくさんの施設を持っております。今後どうしていくかということはもう、これはもう考えていく必要がある、も

うここは恐らく皆さんも一致すると思います。それを考えていく際に、例えば長寿命化をどうするか、統合をどうするか、これについては今、個別具体の部分で、例えば学校であったり、それぞれの部分でも検討を進めておりますので、全体として一気に進めていく方法については、今後どのようにしていくかは、まだまだちょっと検討事項になっていこうと思います。

まず考え方として、個別具体の部分は、今できるだけ、進めていけるほうは進めていくというふうにご考えております。

○吉田議長 よろしいですか。

鷹野議員。

○鷹野議員 協議会、大変、先やっていかんといかんというふうには思います。協議会のこのメンバー、何人ぐらいで、どのような構成員、例えば年代層であったり、男女であったり、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○吉田議長 兵頭商工観光課長。

○兵頭商工観光課長 これまでの経緯ですね、構想日本さんが進めていたこの協議会の状況を参考に、ちょっとまだ契約しておるわけではないので確定ではないんですけど、参考にしますと、約1,000名を無作為に住基の中から選んで、その中から応募があった人たちで、約3%から4%の人たちが、申出があった人たちでメンバーを構成したいと思います。

無作為に選んだ段階で、男女比、それから世代別をきちんと分けた中で1,000名をまず抽出したいと思います。ただし、愛南町につきましては、65歳以上が結構おりますので、そちらの年代ばかりに集中しないようにバランスは取りながらせないけないというふうな課題感を持っております。

以上です。

○吉田議長 鷹野議員。

○鷹野議員 今、3%いうと30人ということですかね。大体そのぐらいの規模で検討会を始めるということですね。はい、分かりました。

○吉田議長 ほかに質疑ございますか。

田中議員。

○田中議員 すみません、大体どれぐらいの数があって、観光施設ですね、どれぐらいの経費がかかっているかっていうのをちょっと教えていただけたらと思うんですけど。全体で。ざっくりで全然いいんです。

○吉田議長 兵頭商工観光課長。

○兵頭商工観光課長 経費、全体の分はちょっと今、手持ちとしてないので、後ほどまた報告させてもらうと思います。先ほど申し上げましたように、観光施設がそれぞれの旧町村単位にありますので、そちらの経費はちょっと後で報告しますので。

○吉田議長 田中議員。

○田中議員 それもそうなんです。それ、分かるんです。結局、全体的なマネジメントができていないってことかなとは思いますが、今回の目標、目的としては、廃止やったりとか統合ってところだと思うんですけど、僕は新たにつくるってことも全然あり得る、今後の可能性としては。であれば、やっぱり全体的なところをマネジメントして、観光施設としては、町としては全体、商工観光課がやるのかとか、各課で分かれていますのでそういうふうになっているかなとは思いますが、そこら辺、町長、縦割りではなくて横の連携みたいなもので、協議会もつくっていく段階で、そういう考え方で進めるってことについてはどういうふうにお考えでしょうか。

○吉田議長 関連になりますので。

中村町長。

○中村町長 お答えします。

今言われるように、例えば観光施設だけ取り上げても実際には、例えば水産分野、農林分野が関わってきたり、当然企画の分野も関わってきたりしますので、庁内側で話す場合には当然、関係各課、商工観光が中心になりながらも、関係各課との連携はしていくべきだと思います。

併せて先ほど金繁議員の言われたこの全体としてどう考えるかという部分になってきますと、恐らくちょっと今の役場の組織体制で考えていくのが大変厳しいかなというのは私自身も感じていますので、これから先のことにはなっていくですけど、じゃあそういう財産管理という形で様々な施設をどういうふうになら、残すべきものは残す、長寿命化をする、どうするってのを考えていくシステム自体もそろそろ検討する必要があるかなと、これはまだ私の個人的な部分ですけど思っております。

以上です。

○吉田議長 金繁議員。

○金繁議員 心強いお言葉をお聞きしました。数年前に公共施設のマネジメントについて一般質問したときに、やはり今、片手間で財産管理をしなければならないという状況、職員の状況では、とても全体の最適化っていうのはできないということは指摘してきましたが、なかなかその体制づくりというのが進んでいません。今回、田原本町を御参考にされたということで、私も、愛南町御出身の町長というだけではなく、非常にもう就任当初から思い切った政策を打ち出して注目しています。この町は、ちょっと余談になるかもしれませんが、人口、愛南町よりも1万2,000人も多い3万人を超えていて、でも予算規模はうちより30億円低いんですね。ですので、やっぱり危機感を持って、迅速に進めていただきたい。その辺のマネジメントについて、町長のお考えを今お聞きしたんですけれども、いつ頃から庁舎内で課長さんたちとお話を始める予定なのか、大体の構想をお聞かせください。

○吉田議長 答えられますか。

中村町長。

○中村町長 お答えします。

先ほど、あくまで、最後に私の個人的な考えというのを付け加えさせていただきました。恐らく、例えばそういう特別の室を設けていくとか、場合によったら課をつくるということになると、どこかからやっぱり人を引っ張ってきながらつくる必要がありますので、庁内全体の組織機構の見直しまで恐らく踏み込まないと、そういう人員の余裕を生み出すことも難しいと思います。

ですからこれに関しましてはやはり副町長であったり教育長、そして総務課長も含めて、まだまだこちらの内部で十分話をしてから、ちょっと現段階でいつ頃からこれがすぐに動くっていうのは、答えられる状況ではありません。ただ、そういうふうにかかしていかうという思いは十分持っています。

以上です。

○吉田議長 ほかに質疑はございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 なるべくあの関連質問じゃなくて、今回このテーマについての質疑をお願いいたします。それでは、5番目を終わります。

次に、町道観自在寺線道路改良事業に伴う物件補償費等についての説明を求めます。

吉村建設課長。

○吉村建設課長 資料6、町道観自在寺線道路改良事業に伴う物件補償費等について、建設課より御説明いたします。

1の政策の発生源・提案に至るまでの経緯は、町道観自在寺線は、路線上に災害時の指定避難所でもある平城小学校及び町営住宅の猪ノ尻東・西両団地4棟54戸が位置する主要幹線道路であります。

これまで、道路幅員が狭小のため自動車等の離合に支障を来していましたが、令和5年度に大阪府在住の方から町道隣接地の寄附採納を受け、令和6年度に家屋の除却後、部分的な道路改良及び残地の駐車場整備に向けた土地利用計画を進めているところであります。

また、商工会事務所前の道路入り口部分も狭く、朝夕の通勤時には混雑が見受けられることから、民家所有者に買収の可否を打診したところ、今回内諾をいただきましたので、家屋の物件補償及び用地買収を行うことで、さらなる通行の利便性・安全性の向上を図るものであります。

2の事業概要は、(1)の物件補償費は2,753万1,512円であり、物件内容は、築48年木造2階建て住家で、延べ床面積89.81平米を補償するものであります。

(2)の用地買収費は414万9614円であり、用地買収内容は、近隣買収単価を参考に平米当たり2万6,300円で、宅地157.78平米を買収するものであります。

3の総合計画との整合性は、町内の道路において安全で快適な通行ができることを目指す姿とした、施策2-2「道路環境の充実」の関連事業としております。

4の他の自治体の類似する政策との比較検討は、過疎対策事業債を活用するため、比較検討はしていません。

5の町民参加の有無とその内容は、令和5年度に御荘平城の本町地区より、本路線の道路改良事業の地区要望が提出をされております。

6の関係ある法令及び条例は、ありません。

7の事業費及び財源措置は、(1)の事業費は、物件補償費及び用地買収費を対象に、3,168万1,126円を6月補正予算として計上させていただいております。

(2)の財源措置は、①過疎対策事業債3,160万円、②一般財源8万1,126円とさせていただいております。また、今後予定の道路改良工事につきましても、過疎対策事業債の活用を考えております。

8の将来にわたるコスト計算は、物件補償等を行い、道路改良工事を実施した場合のコストは、アスファルト舗装等の道路管理に対する維持管理費が必要となります。

それでは、道路改良事業の概要等も含め御説明いたしますので、2ページをお開きください。

上段に位置図を添付しており、赤色着色部分が物件補償及び用地買収の対象箇所であります。また、青色着色部分が道路拡幅予定区間であります。

下段に現況写真を添付しております。位置図に写真撮影方向を示しております。

写真①・②は、物件補償対象家屋を赤丸にて示しております。

写真③は、平城小学校正門方向より町道平城八幡野線(旧県道)と町道観自在寺線との交差点となっております。

写真④は、町道平城八幡野線、商工会前より御荘支所方面へと、町道観自在寺線との交差点の出口車両停止箇所風景となっております。

続きまして、3ページをお開きください。

上段は、平面図に黄色着色部分で現道を表しており、青色及び赤色実線で普通自動車の車両軌跡を示しております。車両軌跡では、町道平城八幡野線からの進入では、現道中央を走行することとなるため、対向車との離合に支障を来していると考えられます。

また、赤色着色部分が物件補償対象家屋で、ピンク色着色部分が用地買収範囲であります。

下段は、道路改良計画を示した平面図であります。

町道平城八幡野線からの進入車線及び町道観自在寺線より左右の進出車線の屈折車線を設けることにより、現道に比べ、さらに通行の利便性・安全性の向上を図ることができます。

以上で説明を終わらせていただきます。

○吉田議長 説明が終わりました。

何か質疑はございますか。

原田議員。

○原田議員 2ページの写真なのですが、一番上段の写真の中で、今回、商工会の横の入り口が確保できるということで、非常にありがたいなと思うんですが、ただこの中で、上の番号の3番ですね、3番より上の平城小学校に近いほう、これはこの計画から見ると現状のままということで、できたらここの部分も何とか用地の交渉で、買収を進めて、この部分も、3番から上の部分も一応、拡幅できたらいいんじゃないかなと思うんですが、これ難しいですか、どうですか。

○吉田議長 吉村建設課長。

○吉村建設課長 3番より上の、正門への間なのですが、今回につきまして、計画について、道路法線は計画を入れた法線をおつくりしております。

実際に、この土地につきましては相続財産で、きょうだいの方がかなりおられるということで、地元1人の方、女性の方がおられるんですけど、今回私自身がその方とお会いしております。その方については、相続が、きょうだいの方がおられるので、女性なのでなかなか難しいというお返事はもろうていますが、今回、高規格道路ですね、国交省の高規格道路においてもこの所有者の方が当たっておりますので、今回国交省にもお話を進めながら、国交省も買収の必要がありますので、それと同じような形で、町としても並行して用地交渉を進めていきたいと考えております。

○吉田議長 よろしいですか。ほかに質疑ございますか。

金繁議員。

○金繁議員 町民参加の有無とその内容なんですけど、地区要望があったということで、これいつ頃あったのかということと、この内容として、今の原田議員の質問とも重なるんですけど、この上の部分についてもやっぱり要望はあったんですかね。どこの範囲だったのかということも含め、2点お願いします。

○吉田議長 吉村建設課長。

○吉村建設課長 地区要望の提出につきましては、令和5年度に提出をされております。

この分、路線につきましては、上の住宅までの間という形で出てはきていますが、まずはそのときに今の青い部分ですね、青い部分で寄附採納を受けた分につきましては早期にしてほしいというお話を頂いております。

建設課としましては、簡単な上までの路線図は描いてはおります、計画として。

また、随時、先ほど用地買収等が整えば、前に、地区要望に合わせまして道路改良を行うという形の考え方を持っております。

以上です。

○吉田議長 ほかに質疑ありますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 ないようでしたら、これで6番を終了いたします。

1時間が経過しておりますので、ここで休憩を取りたいと思います。

15分まででよろしいでしょうか。7、8分になりますが、よろしいですか。

はい、じゃあ暫時休憩にします。

(発言する者あり)

○吉田議長 10分取る。

(発言する者あり)

○吉田議長 20分まで。あっ、取りたい。じゃあ、すみません、なるべく早く終わったほうがいいのかなと思ひまして。ほんなら20分まで休憩いたします。失礼しました。

(休憩)

○吉田議長 それでは、休憩前に引き続き審議を再開いたします。

再開の前に、先ほど田中議員からの質問がありました件について、兵頭商工観光課長のほうから・・・。

兵頭商工観光課長。

○兵頭商工観光課長 先ほどの件について回答いたします。

今回、観光施設の再編に関わります対象施設は8施設です。須ノ川公園、グリーンパークすのかわ、ゆらり内海、道の駅みしょうMIC、西海観光船、山出憩いの里温泉、フレッシュ本松、一本松温泉あけぼの荘の以上8施設です。当初予算で計上しております経常経費を合計しますと、1億415万6,000円となっております。

以上です。

○吉田議長 では、引き続き7番に入ります。

地域資源体験・海学習事業について、執行部の説明を求めます。

坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 学校教育課から、資料7、地域資源体験・海学習事業について御説明をいたします。

初めに、1、議題の発生源・協議に至るまでの経緯ですが、教員の働き方改革や急激な少子化の中で、小中学生を中心とした子供の課外活動を今後も持続的に運営していくため、指導者の外部委託化や地域移行など、学校単位ではなく、地域全体で教育活動を展開していく方針が文科省から示されております。

そこで、新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）を活用し、この方針を持続可能な形で実行するための実証を行うこととし、6月補正において、学習機会の外部化実証事業を実施するための予算を計上するものであります。

なお、本事業は、一般社団法人U m i d a s（ウミダス）が目指す、海業を軸とした地域資源の活用や、ぎょしょく教育を通じた海の体験プログラムの実証と、地域人材の育成や人とのつながりを教育現場から生み出すことを目的としており、海業の理念にも沿った教育分野での取組として位置づけております。

次に、2、事業の概要です。

学校と教育委員会及び民間事業者等が連携し、町内の小中学生へ地域資源の魅力を経験する学習機会を提供することで、地元愛の醸成を図るとともに、将来的に子供たちが地元で活躍するためのベースづくりを行います。また、本事業を町内の事業者へ委託することで、持続可能な民間事業者の育成に向けた実証を行います。なお、民間事業者は西海観光船を予定しております。

事業内容は、（1）愛南町の海についての事業、ぎょしょくのレクチャー等を行います。

（2）観光船に乗船し、海中の景観を学びながら鹿島へ移動をいたします。

（3）鹿島でシーウオーカー、スノーケリング、SUP、海水浴等の体験学習を実施します。

3の総合計画との整合性につきましては、施策5-1「学校教育の充実」、基本事業名「確かな学力の向上」としております。

4の他の自治体の類似する政策との比較検討については、ぎょしょく教育やシーウオーカー等の体験学習は、他の自治体では体験し難い愛南町独自のプログラムであるため、類似する政策は少ないと考えております。

5の町民参加の有無とその内容ですが、町内の小中学生から参加者を募集し、児童生徒が学校の枠を超えて交流すること、また、子供と保護者がぎょしょくについて共に学び、地域の海洋資源の魅力を経験することで、地域への愛着を醸成させていきたいと考えております。

6の関係ある法令及び条例は、ありません。

7、事業費の内訳と財源措置ですが、1日2回、2日間開催をいたします。

1回当たりの参加者を25名とし、計4回開催の定員を100名としております。

詳細につきましては、(1) ぎょしょく講師料、鹿島渡船・観光船の乗船料、SUP、スノーケル、シーウオーカー体験料等の一式として130万円、諸経費としてチラシ、チケット、ホームページ制作費等70万円の合計200万円を計上しております。

なお、そのうち国庫補助金が100万円となります。国庫補助金は補助率2分の1の、新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用します。

なお、本事業は、夏休み期間中に実施する予定としております。

8の将来にわたるコスト計算につきましては、国庫補助の対象となる令和7年度から9年度までの3年間、交付金を活用して毎年200万円程度を予算計上したいと考えております。

以上で資料7の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○吉田議長 説明が終わりました。

何か質疑ございますでしょうか。

山本議員。

○山本議員 すみません、これ、指導者の外部委託化や地域移行などっていうことはすごくよく分かるんですけども、町民参加の有無について、町内の小中学生から参加者を募集し、児童生徒が学校の枠を超えて交流するってあるんですけど、今も多分、愛南町内で、学校、保護者とかにお手紙を出して、参加したい人は参加してくださいってお手紙が来たりとかして、参加するイベントっていろいろあると思うんですけど、大体が、行ける人って限られていますよね。多分毎回、同じような、行ける人たちの子どもたちがそのイベントに参加して、行くっていう形になると思うんです。保護者の人とかって結構忙しい方とか、土日が休みではない方とか、そういう子が、人が、子供の送り迎えができずに、体験、子供は体験したいけど、親の都合で体験できないってというのは、最近多分話題になっていると思うんですけど、体験格差みたいなもの、愛南町の中でも多分生まれていると思うので、これを募集ではなく、学校単位ですとか、PTA活動とか、教育活動とか、1クラスとか、そういうふうにすることってというのは可能でしょうか。

○吉田議長 坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 御質問の、家庭によってはなかなか、親御さんの都合で体験ができない方もいらっしゃるという御質問だったかと思えます。

今回、先ほどの御質問の中で、学校単位で参加できないかというお話がありましたが、学校のほうで一応今年度については、ほぼ授業の編成がもう既に決まっているということもあります。なので、今年度につきましては、やはり夏休み中の土日を利用して、土日のほうがやっぱり比較的、家庭の親御さんも参加できるのではないかなというような意図から、夏休み中の土日で事業を実施したいと考えております。

また、先ほども申しあげましたように、3年間の事業を計画しておりますので、今年実施してみて、その実証もしっかりと行って、やはりその参加者のほうから、やはりその日程を今後検討してほしいでありますとか、募集の方法を変更していただきたいというような意見がございましたら、またその辺は来年度に向けて対応していきたいと考えております。

以上です。

○吉田議長 よろしいですか。

ほかに質疑ございますか。

尾崎議員。

○尾崎議員 失礼します。これ開催日が、当然その夏休みの期間中の土日ということで今説明がありましたけれども、鹿島地域でやるということになりますと、天候の、悪天候によって中止になることも十分可能性としてあるんですけども、当然そういうことも想定して、予備日程等は考えておるのでしょうか。

○吉田議長 坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 一応、予備日は設定しておりますが、ただこちらについては、西海観光船の事業者へ委託を考えておりますので、やはり事業者のほうも複数の予備日がなかなか取れないと。といいますのがやはり、夏場は通常業務の書き入れどきとなりますので、既にほかの、一般の方の予約も受ける必要があるということなので、もう予定日としてはほぼ1日だけを予定はしております、というようなこととなります。

○吉田議長 よろしいですか。ほかに。

金繁議員。

○金繁議員 先ほど体験格差という重大な指摘があったと思うんですけど、それについて現状認識どのようにされているのかということと、このことに限らずあるようなので、今後、改善、早急にするべきだと思うんですけど、改善策を、先ほどのお答えですと現場から声が出たらってということですけど、声を上げられない、なかなかそういう状況もありますので、ぜひ主体的に考えていただきたいんですけど、ちょっともう一步踏み込んでいただけないでしょうかという点が一点と、それから2点目は、3の総合計画との整合性なんですけど、確かな学力の向上ということで、これは学力というのは具体的に、科目的にはどのようなものをお考えかということをお聞きしたいです。

というのも、やはりぎょしょく、それからシーウオーカーなどの体験もすばらしい、ぜひやっていただきたいんですけども、一方でやっぱりこの愛南町の生物多様性、群を抜いていまして、やっぱりそこに誇りを持ってもらうように、ある程度やっぱり専門家にも入っていただいて、レクチャーを受けられるような状況になるのかどうかというのを知りたいところです。ぜひそうしていただきたいんですけども、その辺もどうお考えかという点をお聞きしたい。

それから3つ目は、これウミダスの事業としてされることをお考えでしょうか。

以上、3点お願いします。

○吉田議長 坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 まず1点目の体験格差の現状認識ですが、こちらについては、現状を確認していない状況であります。ですので、この今回の事業を実施することで、実際どのような体験格差があるのかということは、具現化できるものと考えておりますので、それを今年度実施させて、まあ実証事業ということになりますので、一度実施させていただいて、次年度以降にその体験格差等のやはり実態を反映させていきたいと考えております。

次に、確かな学力の向上、政策の部分だったかと思えます。こちらについては、まず本町の教育委員会の2025年の教育の推進、これ教育長のビジョンとも重なります、この土台となる根本的な取組としまして、5点ありまして、南宇和高校の活性化、質の高い教育の保障、多様な体験活動の保障、保育園・幼・小・中・高・大の連携、防災教育の充実といった5点を大きな取組の目標としておりまして、そのうちの一つの、多様な体験活動の保障という部分に当たります。

やはり幼少期に、実際に体験学習をするのとそうでないということは、かなり、将来的に大きな経験の差になってくるということが言われておりますので、今回の体験、海学習事業を通じて、子供たちに愛南町の自然を十分感じていただいて、地元への愛着等を生み出していきたいと考えております。

3点目のウミダスとの、すみません、ちょっと最後の質問が聞こえなかったんですが、もう一度構いませんか。

○吉田議長 金繁議員。

○金繁議員 この事業はウミダスに委託する事業としてお考えですか、という点です。

○吉田議長 坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 ウミダスに委託するのではなくて、町の学校教育課の事業ということで実施をいたします。

以上です。

○吉田議長 金繁議員。

○金繁議員 では、2点目についてもう一回聞きます。

何の科目につながっているのかという、確かな学力の向上が、科目は何ですかという質問にはお答えされていないと思うんですけど、そこは漠然とした感じで捉えていらっしゃるのが現状ですかね。

○吉田議長 中尾教育長。

○中尾教育長 失礼いたします。確かな学力——確かな学力という観点を見たときに、何をもって学力かというところ、今、科と言われたのは、いわゆる例えば国語科なのかとか、総合的な学習の時間なのかという意味でしょうか。

多分これは、ウミダスやあるいは地域の西海観光船、民間の方とも、地域の方とも一緒に取り扱って、共に子供たちを育てるという点では多分、総合的な学習の時間という大きなくくりになると思います。そこでの体験的な学習の補填というか保障になると思うんですが、ただ、今、確かな学力ということを大きく捉えると、生きる力というふうになると思うんです。そういういったときには、いわゆるここで保障されるような、いわゆる地元の自然へ触れ合い、それを先ほど言われたように誇りに思う子供たちを育てるとかっていう点でいいますと、いわゆる生きる力というのは、国語や算数の基礎的な学力、まあもちろんこれも大事なんですけれども、それらを生かしながら、自分が学習材に積極的に関わる、つまり愛南町の自然に関わっていく力、学ぼうとする力、これを生きる力の側面というふうに、特に文科省は、学んだ力ではなくて、学ぶ力というふうに、今年から特に新しい学習指導要領で言うておりますので、それにつながる学力というふうに捉えたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

○吉田議長 ほかに質疑ございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 ないようですので、これで終了いたします。

続きまして、あいなんBOOKピクニック(本屋遠足)事業について、執行部の説明を求めます。

坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 資料8、あいなんBOOKピクニック(本屋遠足)事業について御説明をいたします。

1の政策の発生源・提案に至るまでの経緯ですが、この事業の目的は2つあります。

1つ目は、現在、教育現場のデジタル化が進む中、子供たちの活字離れが心配され、その重要性が改めて叫ばれております。活字を読む行為は脳の活性化を促し、頭の回転の速さや記憶力などの能力が伸びることが証明されていることから、本町の児童生徒へ、読書に親しむ環境整備をさらに進め、そのことで読解力をはじめとする学習能力の向上を目的として本事業を実施します。

次に2つ目の目的ですが、現在、全国で書店が1店舗もない自治体が27.7%、書店と図書館の両方がない自治体が約15%となっています。町内唯一の書店である明屋書店は、住民の知の拠点となる図書館がない本町においては、図書館に代わる重要な役割を担っていると考えております。ただ、最近の利用者の減少で、書店の存続が危惧されております。

実際ここの二年で近隣の宿毛店、宇和店、内子店が閉店していることから、本事業において明屋書店で書籍を購入することで、同店の存続に向けた一助となる支援も併せて行うものであります。

次に、2の事業の概要ですが、町内の児童生徒に図書カードを1人2,000円分配付したいと考えております。総合的な学習の時間等を利用し、学校または学級単位で明屋書店を訪問して、子供たちが実際に本を手にとって、好きな本を選んで購入します。購入後は各学校で図

書の紹介や感想等の発表を行うなど、児童生徒の読書力の向上につなげていきます。

4の他の自治体との類似する政策との比較検討については、鬼北町のほうで「本屋へ行こうプロジェクト」として小中学生がやはり明屋書店広見店を訪れ、自分の読みたい本を選んで、読書後は学校図書室でみんなと共有するという取組を行っておりまして、鬼北町についても1人2,000円以内での購入ということを伺っております。

5の町民参加の有無とその内容、6、関係ある法令及び条例については表記のどおりでございます。

7、事業費と財源措置につきましては、児童生徒は町内910名、転入等の予備も含めてですが、910名の2,000円、182万円と、各学校から明屋書店までマイクロバスでの送迎を考えておりますので、バスの運転手の謝礼、32回分掛ける6,000円の19万2,000円とし、事業費の合計201万2,000円を予算計上したいと考えております。

なお、財源はふるさと寄附金を活用させていただきます。

最後に、将来にわたるコスト計算ですが、今年度の単発だけではなく、次年度以降も事業を継続することで、子供たちの本に親しむ環境や読解力の向上を目指すため、毎年度200万円前後を計上したいと考えております。

以上で資料8の説明を終わります。よろしくお願いたします。

○吉田議長 説明が終わりました。

何か質疑はございますでしょうか。

山本議員。

○山本議員 すみません、これ、児童生徒に図書カードを配付、2,000円分配付して、鬼北町のほうでは、自分の読みたい本を読書後は学校図書館に置かって書かれているんですが、愛南町でもそうなる予定ですか。

○吉田議長 坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 本町においては、図書カード2,000円分を配付しまして、実際に本屋に行って、自分の好きな本を手にとって購入していただくと。持ち帰った本は学校等で読んでいただいて、おっしゃったように広見のほうは学校の図書館のほうに置いて皆さんで共有することですが、本町においては、当然自宅に持ち帰って家でも読んでいただくと、当然ということで保護者の皆さんにもこういう事業が認知されると考えておりますので、本町については特に学校での共有ということは、現在のところは考えておりません。

以上です。

○吉田議長 よろしいですか。ほかに質疑。

池田議員。

○池田議員 これ予算、将来にわたり毎年度ということになっておるんですが、これ大体どれぐらいのスパンでとか、効果を見ながらとかいう、そういう考えはないですか。

○吉田議長 坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 将来的にどれぐらいのスパンでという御質問についてはまだ、例えば5年であるとか10年であるとかっていう具体的なスパンでは考えてはいないんですけれども、現実としまして、毎年、学校のほうで全国学力・学習状況調査っていうのがあります。その結果を見ると、本町の小学生、中学生については、全国平均よりかやはり国語の読むことの項目が全国平均を下回っているというような現状があります。これが大きなやはり課題になりますので、今後も読解力の育成に向けた取組を推進することが重要であると考えておりますので、今回の取組を何年か続けて、このような子供たちの国語力の読解力の向上を目指したいと考えております。

以上です。

○吉田議長 金繁議員。

- 金繁議員 先ほど質問ありました、学校での共有をしないんですかと、しないということなんですけど、その理由は何ですかっていうのが1点目と、2点目は、これ、いい事業だと思うんですけども、ふるさと寄附金を活用ということで、これ寄附してくださった方にフィードバックというか、こういうことをしましたっていう報告文を入れると、また、子供たちに具体的に役立つんだなって思ってくださいって、また寄附をしようかなっていうことにつながっていくと思うんですけど、その辺、商工観光課とか企画財政課との関連というか、連携・協力はいかがでしょうか。
- 吉田議長 お答えできる範囲で。
坂本学校教育課長。
- 坂本学校教育課長 本の、まず、購入した本の共有なんですけど、先ほど私、鬼北町のように図書室での共有はしないという説明をしたんですけど、最初の説明で申し上げましたとおり、やはり学校に持ち帰って読書をして、その本の紹介であるとか、感想は学校内で共有するということになりますので、結果的に子供たちが選んだ本については、実際に物は置かないことにはなりますが、共有はできているのではないかと考えております。
あと、ふるさと寄附金につきましては、恐らく、ふるさと寄附金の目的である教育……
(発言する者あり)
- 吉田議長 じゃあ、替わっていきますか。
清水企画財政課長。
- 清水企画財政課長 ふるさと寄附金の活用につきましては、この活用を、この事業に充当したという結果を広報とかで改めて商工観光課が公表する予定になっております。
以上です。
- 吉田議長 ほかに質疑ございますか。
金繁議員。
- 金繁議員 1点目の学校に置かない理由っていう、直接的な理由はお聞かせいただけなかったと思うんですけど、自分はね、買った本をずっと持っておきたいっていう子供もいるでしょうけれども、いやもう自分は読んだので、学校で読みたい人が読みたいときに読んでもらったらいと思う子もいるかもしれないし、次の年度の子供たちがまたそれに触れることもできると思うので、学校に寄附したいっていう子は寄附できるっていうふうにされてはどうかと思うんですけど、その点いかがでしょうか。
- 吉田議長 坂本学校教育課長。
- 坂本学校教育課長 その辺については、うちのほうとしても、必ず家に持って帰ってくれと限定するわけではないので、そこはもう学校の先生方であるとか、子供さん自身の考えで、それは学校に置きたいということであれば、それはもう全然断るものではないと考えておりますが、ただ、学校の図書室もなかなかそのスペースがないという物理的な問題もありますので、そこはやはり先生方としっかり調整をした上で行っていきたいと考えております。
以上です。
- 吉田議長 清水企画財政課長。
- 清水企画財政課長 すみません、少し訂正をさせていただきます。私、先ほど広報と言いましたけども、ホームページの誤りでございました。商工観光課のほうでホームページに掲載するという予定になっております。
以上です。
- 吉田議長 その他、質問。
田中議員。
- 田中議員 この取組、非常に素晴らしいなと思います。年に一度ですよ、これ、実施予定が。例えば二度とかっていうことは考えてはいないんでしょうか。

○吉田議長 坂本学校教育課長。

○坂本学校教育課長 確かに複数回実施することでその効果も上がるんだろうと考えてはおりますが、やはり学校からすると、恐らく本屋遠足をした場合に、約2時間の時間は取るということになりまして、今年度、学校のほうもいろいろ授業のスケジュール等がもう既に決まっているという状況の中でありますので、学校の先生とも、先般、校長会の会長ともお話をしたんですけれども、やはり今年度は1回程度が妥当ではないかというような現場サイドからのお話もありましたので、今年度は1回ということにしておりますが、また、今年度実際実施して、その効果等、実際、複数回可能であれば、そのような方向でも検討はしていきたいと考えております。

以上です。

○吉田議長 よろしいですか。

ほかに何か質疑ございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 なければ8番を終了いたします。

それでは引き続き、9番、令和6年度に実施した「新たな経済に向けた給付金・定額減税一体措置」の所得額確定に伴う不足額給付について、執行部の説明を求めます。

清水企画財政課長。

○清水企画財政課長 企画財政課から、令和6年度に実施した「新たな経済に向けた給付金・定額減税一体措置」の所得額確定に伴う不足額給付について報告いたします。

これは令和6年度に実施した助成事業の令和7年度における追加給付事業となります。

まず政策の発生源といたしましては、国が全国一律に実施する交付金制度でございまして、国の方針に従い実施するということとなります。

事業の概要につきましては、令和6年度に実施した所得税・個人住民税所得割の定額減税及び減税し切れないと見込まれた方への調整給付金について、令和6年所得が確定したことによる不足額分等を追加給付するものでございます。

国の施策でございしますが、総合計画では政策1に位置づけています。

全国一律の事業であるため、他の自治体との比較検討はしておりません。

町民の参加につきましては、追加措置の対象となる町民ということになります。

関係法令等につきましては、物価高騰対応重点地方創生臨時交付金制度要綱です。

事業費・財源につきましては、約2,300人分の給付金と事務費を合わせて、7,677万7,000円、それと財源として同額の国庫補助金を6月補正予算に計上しております。

将来にわたるコスト計算は、ありません。

以上、不足額給付の報告とします。

○吉田議長 説明が終わりました。

何か質疑ございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 質疑がないようなので、9番についてはこれで終了いたします。

引き続き、10番、町長と話そう「愛南ほっとミーティング」の開催について、執行部の説明を求めます。

清水企画財政課長。

○清水企画財政課長 次に、町長と話そう「愛南ほっとミーティング」について報告いたします。

町長就任後、実施したいとしていた懇談会につきまして、気軽に親しみやすいイメージとなることを狙いまして、名称を「町長と話そう「愛南ほっとミーティング」」とした意見交換会を実施することになりましたので報告いたします。

まず、政策の発生源等についてですが、これにつきましては、町長の公約における、町民と

の連携向上のために町民の方々の御意見等を直接伺う機会を設けるといふものでございます。

事業の概要につきましては、令和7年度から令和9年度の3か年に分けて、町内の全公民館20か所を巡り開催いたします。今のところ開催予定は御覧のとおりですが、この20か所で開催するほっとミーティングとは別に、町長が町民からの御意見を伺える場も設けてく予定です。

ほっとミーティングの開催時期につきましては、令和7年度については秋頃を予定しています。また、開催時間については午後7時から8時30分までの90分程度としています。

意見交換会の内容につきましては、今後詰めてまいります。参加者が気軽に発言できることを第一に考え、町側の出席者や会場のレイアウトなどに配慮したいと思っております。また、伺いました意見等は今後の政策に生かしていきたいと考えています。

ほっとミーティングの周知につきましては、広報紙や防災行政無線のほか、地域に密着した公民館行事なども活用していきます。

総合計画との整合性は、政策4、施策1の基本事業「町民の町政への参画の推進」に位置づけています。

他の自治体では、宇和島市が同様の懇談会を開催しているようでございます。

町民の参加につきましては、町内在住者のほか、町内への通学者・通勤者も対象とし、開催する公民館区以外の方の参加も可としております。

関係条例につきましては、愛南町自治基本条例及び愛南町住民参画条例ということになります。

事業費・コスト計算につきましては、職員の時間外勤務手当が各年度8万円程度必要になるかと考えておりますが、既存の予算で賄えると考えています。財源は一般財源です。

以上、ほっとミーティングの報告とします。

○吉田議長 説明が終わりました。

何か質疑ございますでしょうか。

金繁議員。

○金繁議員 ほっとミーティングを始めていただけるということで嬉しいです。

これ何人ぐらいの参加者を想定していらっしゃるかということと、本当に工夫していかないと、同じ人だけしか来なくなったりとかいう、人数も少ないとかいうお話もほかの町で聞くんですけども、この話しやすい雰囲気づくりに努めようと、もう既に考えていらっしゃるということで、その辺具体的にどのような方法を考えていらっしゃるかお聞かせください。

○吉田議長 清水企画財政課長。

○清水企画財政課長 人数につきましては、大体10名以上30名以内ぐらいを想定しておりますが、これにつきましては、実際に募集をしたときにどれほどの方が来てくれるかということに尽きると思っております。

ただ、公民館の事業としての位置づけというのもございますので、公民館主事さんとかに、地域に密着した方など、若い意見の方、御高齢の方、いろいろな方を交ぜて声をかけていただきたいと考えております。

それと、その工夫につきましては、恐らく今の頭の中では管理職の方が並んで、町民の方が対面にずっと席を設けてというような感じが今までやったと思うんですけど、そういうことはちょっと排除して、できるだけ参加者も、町側の参加者も少なめにして、座談会的なことでできたらいいかとは思っておりますが、今後また詰めていきます。

以上です。

○吉田議長 その他質問ございますか。

田中議員。

○田中議員 この模様をケーブルテレビ等で収録、または生放送的なことは考えていらっしゃいま

すか。

○吉田議長 清水企画財政課長。

○清水企画財政課長 考えておりません。

以上です。

○吉田議長 ほかに何かございますか。

尾崎議員。

○尾崎議員 これ各会場で90分の設定で、公民館でやるんですけども、当然今、愛南町は高齢化が進んでおりまして、お座敷に高齢の方が90分座れることは極めて困難なので、その辺は十分配慮していただいて、座椅子か椅子、そういった会場設定でぜひやってほしいのですがいかがでしょうか。

○吉田議長 清水企画財政課長。

○清水企画財政課長 その辺については十分配慮したいと思います。

以上です。

○吉田議長 ほかに質問ございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 なければこれで終了いたします。

最後になりました、11番、「あいなん未来議会2025」の開催について、執行部からの説明を求めます。

濱総務課長。

○濱総務課長 「あいなん未来議会2025」の開催についての説明をいたします。資料11を御覧ください。

まず1の政策の発生源・提案に至るまでの経緯については、主権者教育の推進、こども基本法による子供の意見を聞く取組として、あいなん未来議会2025と銘打って、夏休み期間中での実施を調整するものであります。

2の事業の概要については、未来の愛南町を担う子供たちが、町議会の仕組みなどについて実体験を通して学び、町政に対する理解と関心を深め、併せて、子供たちの提言や意見を町政に反映することを目的に「あいなん未来議会2025」を開催します。現在は、南宇和高校に打診したところ快諾をいただき、調整日程協議を進めているところであります。

3の総合計画との整合性についてですが、施策4-1「協働によるまちづくりの推進」、-4「町民の町政への参画推進」と、施策5-1「学校教育の充実」に該当します。

4の他の自治体の類似する政策との比較検討については、内子町子ども議会が令和6年7月31日に、今治市中学生議会が同年8月5日、松前町子ども議会が同年8月9日に開催がありました。

5の町民参加の有無とその内容についてですが、町民参加はありということになります。

直接関わることとして、参加する生徒は10人から16名を議員として迎えますが、高校側の選出によります。

6の関係ある法令及び条例については、こども基本法、愛南町自治基本条例、愛南町住民参画推進条例が関係法令となります。

7の事業費の内訳・財源措置については、これについては約2万円の支出を見込んでおり、内訳は、高校生議員約10名程度としますと、参加記念品として2,000円の図書カードを贈呈する予定で考えております。町単独事業になります。

以上で、「あいなん未来議会2025」の開催についての説明を終わります。

○吉田議長 説明が終わりました。

質疑は何かございますでしょうか。

尾崎議員。

○尾崎議員 これについて、大体でいいんですが、いつ頃開催を考えておるのか。それと参加した高校生の方からぜひとも感想文なりも徴求していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○吉田議長 濱総務課長。

○濱総務課長 いつ頃かということにつきましては、夏休み期間中で今、8月の上旬を考えております。今、ちょうど南宇和高校にその日程調整を打診しているところでございます。

感想文につきましては、今のところその予定はないのですが、この議会自体に、高校生議員に一般質問をしてもらおうというふうに思っております。そして執行部側は、我々現執行部がそれに答えるということで、それで彼らの、高校生側の意見をこちらの執行部側が回答するという形にさせていただきたいと考えております。

以上です。

○吉田議長 その他質疑。

原田議員。

○原田議員 この子ども議会、たしか何年か前にも開催したと思うんですよ。その際には、私の記憶では、中学生を対象に来ていただいたと思うんですが、今回、高校生を対象にしたという理由は何ですか。

○吉田議長 濱総務課長。

○濱総務課長 前回確かに2016年に開催しております。原田議員がおっしゃるように、当時は南宇和高校も含め各中学生に数人ずつ子ども議会を依頼し、それを受けていただいております。

今回、先ほどの学校教育課から御報告があったように、他の事業も町側が小中学校にお願いしている関係もあり、まず南宇和高校に打診したところ、皆様御存じのとおり総合的な探究の時間において、農林業、水産業、文化・商工観光業、防災・まちづくり、地域医療・教育・福祉という5つのグループに分かれて、各グループが総合的な探究の時間として年度末に各発表をしております。南宇和高校がこの5つのグループのほか、生徒会、そして地域振興研究部、皆さんも御存じのとおり南宇和高校の活躍が新聞紙上に出ている地域振興研究部も存在するということで、ここから数名ずつ出すということになると、今回は南宇和高校で1回させていただいて、仮にこれの反響を見まして、また後年に中学生議会、先ほど他の自治体の類似する政策との比較検討の中で、今治市は中学生に限定しております、このように中学生に下ろすということもできますので、今回は南宇和高校のこの各グループでの議員を想定しているために、南宇和高校での実施というふうにさせていただきたいと考えております。

以上です。

○吉田議長 その他。

金繁議員。

○金繁議員 すばらしい事業だと思います。前回行ったときと、この今回と、出てきていただく生徒さんの選出方法、手続とかの違いについてお聞かせください。

○吉田議長 濱総務課長。

○濱総務課長 手続ですか。

○金繁議員 手続というか、選出方法ですね。

○濱総務課長 選出方法。

○吉田議長 濱総務課長。

○濱総務課長 これにつきましては、学校側が、先ほど私が申し上げた、今回でいいかと南宇和高校の各分野の代表班と、そしてテーマ、今回でいうと恐らく一般質問になると思います、これらをグループで考えていただいて、その議員の選出は学校側に委ねておりますので、学校側から提出された生徒が議員として参上するという運びになると思います。

以上です。

○吉田議長 金繁議員。

○金繁議員 お聞きした趣旨は、本当にすばらしい、政策の発生源のところに書いてある主権者教育の推進というところで、主権者として、本当に主体的に生徒さんたちが考えて出てきてくださるってことだと思いますので、そこをしっかりと担保されていることがとても重要だと。大人の意見が刷り込まれたりとかということがなく、本当に主体的に、自分たちで考えて、出してきてくれるってことを期待したいので、その辺が担保されているかどうかというのをお聞きしたかったです。その辺どのぐらい意識されているかお聞かせください。

○吉田議長 濱総務課長。

○濱総務課長 これ一過性のパフォーマンスで、大人の考えが入ったパフォーマンスで終わってしまうと、本当にもう形式的なものになりますので、今議員がおっしゃったように、子供たちで考えていただいて、先ほど私が申し上げた各グループでそれぞれの質問を考えていただき、その完成度合いは、さすがにそれは先生が校正したりはするんでしょうけれども、学校側、そして子供たちの意見が当日発表されることを私は願っております。

以上です。

○吉田議長 ほかに質疑ありますか。

田中議員。

○田中議員 放送とかはしないんでしょうか。放送とか、収録だったりとか、このことを町民が知るよい機会になるかなと思います。いかがでしょうか。

○吉田議長 濱総務課長。

○濱総務課長 今回については、さすがにライブ放送は高校生のプレッシャーにもなりますので、録画でCATVの放送をさせていただく考えです。

以上です。

○吉田議長 ほかに質疑ありますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 なければ、これで執行部報告を終了いたします。

執行部の方は退席をお願いいたします。ありがとうございました。

(執行部退席)

○吉田議長 議会協議に入る前に、このまま継続して審議を遂行してよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 休憩要りますか、大丈夫ですか。じゃあ1時間をめどに一生懸命進めてまいりたいと思います。

まず、本日の執行部報告のうち、二重下線、2番から9番までが定例会に関わる協議題であります。

6月定例会において委員会付託とする案件など、何か意見がございますでしょうか。

これはこのまま審議のほうでよろしいでしょうか。

よろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 よろしければそのまま、委員会付託とする案件はなしということで進めてまいりたいと思います。

それから2番目、議会運営に関する申合せ事項の確認について、事務局の説明をお願いいたします。

○土居事務局長 失礼いたします。それでは議会資料1のほうをお開きください。

議会運営に関する申合せ事項の確認について説明いたします。

先般、4月28日に開催いたしました議員懇談会におきまして、御確認いただきました議会運営に関する申合せ事項のうち、議会構成後の議員全員協議会で再度議題として協議となりま

した項目につきまして御説明いたします。

それでは、資料に沿って説明いたします。

まず、1、議会広報特別委員会の常任委員会への移行について。

令和7年5月1日に議会広報特別委員会が設置されたばかりでありまして、現特別委員の任期中2年間に協議し、結論を出すことでよいのではないかと思います。なお、常任委員会とする場合、愛南町議会委員会条例の改正が必要となります。

2番目といたしまして、議会資料の配付の確認をさせていただきます。

タブレット配信もある資料のうち、紙の資料も御希望される方の御確認をさせていただいたと思います。御希望される方のほうが多いかもしれませんので、逆にタブレット資料のみでよろしい方、資料につきましては当初予算説明資料、補正予算概要説明資料、主要施策の成果に関する報告書でございます。タブレットのみの資料でよろしい議員の方は、申し訳ございませんが挙手をいただいたらと思うんですが。

(挙手する者あり)

○土居事務局長 尾崎議員と吉田議長。お二人のみでよろしいですかね。残りの方につきましては紙の資料も御希望するという事で準備させていただきます。

3点目、関連質問の取扱いについて。

一般質問は、質問する議員側も御質問を受ける執行部も、ともに十分な準備が必要であるため、通告制が採用されております。通告にない質問が多数出されると、時間管理が難しくなり、議会運営の効率化の面からも、議事進行に支障を来す可能性があり、質問が拡散し明確化されなかつたり、答弁の準備性の確保ができないことが考えられます。質問を許可するか否かは、執行部の答弁の可否にもよりますが、議長の判断によるものとしております。

4点目、一般質問答弁書の議員への事前配付について。

現在、一般質問においては、議員が通告した質問に対し執行部が口頭で答弁を行う形式を取っており、これにより臨機応変な質疑応答や議論が可能となっております。一般質問答弁書の議員への事前配付は、議会の透明性、効率性、政策論議の深化を図る上で一定の効果が期待される手法であります。一方で、当該運用に関しては、議会の本質や実効性に影響を及ぼす可能性があることから、慎重な議論が必要となることが考えられます。

2ページ目に移りまして、5、予算決算等の委員会付託について。

予算決算は一体不可分な議案なので、総務文教・産業厚生の両常任委員会に分割付託することができません。委員会付託する場合は、議長を除く議員全員で構成する特別委員会または常任委員会を新たに設置する必要があります。常任委員会とする場合は、愛南町議会委員会条例の改正が必要となります。なお、補正予算も対象とした場合、各定例会で委員会付託が必要になります。

6、請願の提出期限の前倒しについて。

請願は委員会付託が必要であり、その取扱いは議会運営委員会で協議されます。定例会前の議会運営委員会は定例会初日のおおむね7日前であり、請願の提出期限は、定例会初日の10日前(初日を含む)となっております。

7、旧姓や通称使用の取扱いについて。

現行では、議員から旧姓・通称使用申請書が議長に提出された場合は、議会運営委員会に諮り、議会の会議における議事整理上、または議員としての活動上支障がないと許可したときは、旧姓・通称名使用許可通知書により当該議員に通知するものとしております。なお、届出制により使用可能とする場合、愛南町議会議員の旧姓・通称名の使用基準の改正が必要となります。

8、全体的・構造的な理解をするような勉強会について。

研修を追加する場合は研修計画を変更し、議会運営委員会に委ねる必要があります。

3ページ目に移りまして、9、委員会等会場へのパソコン等の持込みについて。

貸与されたタブレット端末があることから、議員が委員会等における自前のパソコンや録音機器の持込みについては、事前許可制で使用可能とするか、原則禁止とするか協議する必要があるとございます。

標準町村議会会議規則では、「議場に入る者は、帽子、コート、マフラー、傘の類を着用し、又は携帯してはならない。ただし、病気その他の理由により会議への出席に必要と認められる物であって議長にあらかじめ届け出たものについては、この限りでない」と定められており、それに沿って愛南町議会会議規則の改正の検討を現在進めているところでございます。

参考といたしまして、四角枠で現行の愛南町議会会議規則の抜粋を掲載しております。

現規則では第102条におきまして、「議場に入る者は、帽子、外とう、襟巻、つえ、かさ、携帯電話機、タブレット型端末機（議会が指定するタブレット型端末機を議長の許可を得て持ち込む場合を除く。）、撮影機器及び録音機の類を着用し、又は携帯してはならない。ただし、病気その他の理由により議長の許可を得たときは、この限りでない」と、現行の規則ではなっております。

10、ハラスメントに対する客観的な相談窓口について。

町議会では公平性を保つための相談窓口、審査体制及び第三者委員会の設置が困難と思われるため、現在、県議長会に相談をしているところでございます。こちらが実現した場合は、各議会でハラスメントの認定、対象議員への対応を定めた例規等の制定が必要と思われれます。

以上10項目が、先般の議員懇談会にて、議会構成後の議員全員協議会で再度協議の項目となりました事項でございます。

以上です。

○吉田議長 説明が終わりました。

皆さんのほうにお聞きしたいんですが、これを1項目ずつここで審査していくのか、もしくは議運等々、委員会のほうに付託するのか、どちらの方法がいいのかちょっと皆さんの御意見をお聞きしたいと思います。

石川議員。

○石川議員 私は1項目ずつやっていったほうがいいと思いますが。

○吉田議長 その他、意見はございますか。

池田議員。

○池田議員 項目を分けて、各議運等に付託というか、議運等で協議するほうがいいと思います。例えば3から10までは議運で検討するとか。

○吉田議長 今、2つの意見が出ました。1項目ずつこの場とするのか、もしくは、3項目から10までは各委員会、もしくは議運等々で、原案を基に少し検討していただいて、案を出していただいた段階で最終決定を皆さんで同時にするという形をするのか、二つに一つなんですが、ほかに意見ございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 じゃあ今2つの意見で、そのまま採決してもよろしいですか。

石川議員の意見で1項目ずつ今やるのか、もしくは一括、議運等でもんでいただいて、どうするのかをひとつ検討していただいて、再度、全員協議会で結論を出すという案です。

石川議員。

○石川議員 議運等と言われましたが、ほかに、議運以外で考えられている委員会は何でしょうか。

○吉田議長 いや項目によっては産業厚生、総務も含めて、検討の余地はあるのかなということですが。議運だけであれば議運で決定をしたいと思いますが。

金繁議員。

○金繁議員 2つの御意見の違いがいまひとつ私は明確じゃないんですけど、ここで、全協で決められるもの、決めたほうがいいものと、議運に委ねたほうがいいものとあるかとは思いますが。

けど、ここで今日は振り分けをするということですかね。ここの全協で決められるものについては決めて。項目によっては。

○吉田議長 今、2番については、これはもう配付資料の今確認を取りましたので、1番、2番については、これは今後検討していく課題になります。それから、3番目から10番目までについては、ここでしたほうがいいものと、それから議運に委ねたほうがいい場合とあると思いますので、それも同じように審議をしていただきたいと思います。最終的には議運で決めなきゃならないことですから、そこら辺のところの意見を今聞いております。

石川議員。

○石川議員 もう一度ちょっと確認なんですが、1番と2番は全協で決める。今日決めるかどうかは別にしてですよ。

○吉田議長 2番について今、確認取りましたので、1番については常任委員会への移行ですから、ここはこの場ではちょっと厳しいかなと思います。

(発言する者あり)

○吉田議長 分かん。すみませんね、説明の仕方が悪かったですかね。

今日一つ一つ、この申合せ事項について、一つ一つここで確認をしていくのか、もしくはこれは今日の今日では出ないので、少し議運等の委員会でもんでいただいて、再度どうするのかの最終的な結論は、次回の全員協議会のほうで決定を出していくということです。

金繁議員。

○金繁議員 私は、ある程度やっぱり全協で話したほうがいいと思います。というのは、今回の議会運営委員会のメンバーの中に、やっぱりその、ベテランの議員さんが入っていらっしやらないということがあります。通常、ベテランの議員さんが入ることが多いんですけども、今回たまたまそういうことになっているので、やっぱり広く意見を全協で聞いて、熟議したほうが、するっていうことも大事だと思いますので、その点、私は、はい、言うておきます。お願いします。

○吉田議長 最終的にはこれ全員協議会で決定することですから、ある面ではもんでいただいて、原案を出していただいて、これをどうするのかっていうのを次回抽出して、早めの段階で、全員協議会で決定をしていきたい。今日するのであれば今日でも構いません。とことんやる時間はありますので、そういう審議でございませう。

どうしますか、1個1個やりますか。私は別にやっても、どっちでも、皆さんの意見を尊重します。

鷹野議員。

○鷹野議員 まだ今日時間あるので、1個1個ちょっとやっていって、これで、もしできんのであればまた次回するとか、そういう形でしたらいいんじゃないですか。すぐ決められるものもあると思うんですよ。

○吉田議長 はい、分かりました。今の意見でよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 じゃあ1個1個やっていきます。

まず1番、議会広報特別委員会の常任委員会への移行についてという事項であります。

今回、これをするには、条例等々の改正が必要となりますので、この場ではできませんけども、時期を決めて、例えば、6月定例に間に合うかどうか分かりませんが、6月なのか9月定例なのか、そこまでに準備期間がありますので、そこで決定をしていくのか、そのまま特別委員会でいいのか、その辺の議論のところをよろしく願います。

尾崎議員からいきます。

○尾崎議員 ちょっと、特別委員会なんですけれども、現在は、これは特定の問題に対処するために設置されるというのが原則となっております。今回はもうその目的というのは達

成されていると思いますので、速やかに、できるだけ早く解散をしていくべきであろうと。そして、今後、議会だよりの発行についてはもう継続的に業務としてやるということがもう確定しておりますので、そういうことでやっぱり常任委員会にできるだけ早く移行していくのが私は適切であろうかと考えております。

○吉田議長 尾崎議員から意見が出ました。

石川議員。

○石川議員 この説明の文書で、特別委員会を設置されて、特別委員の任期中（2年間）って書いていますが、これ2年間って決まっていらないはずですよ。何でこんな説明の文章になったのかちょっとお聞きしたいんですが。

○吉田議長 各委員会が2年だと思いますから、これも同じように2年ではないでしょうかね。

○石川議員 いや特別委員会の、本会議で決めたことは、目的が達成するまでっていうことになっているはずですよ。

○吉田議長 特別委員会についてはということですか。

○石川議員 この、特別委員会というか、議会広報特別委員会の設置した、本会議で決議したのは。

○吉田議長 2年。いや2年じゃなくて……

○石川議員 任期は、期間は入っていないはずですよ。

○吉田議長 ちょっとお待ちください。

○土居事務局長 失礼いたしました。石川議員のおっしゃるように、先般の臨時議会での議案のほうは、期間のほうは、調査等終了するまで閉会中の継続調査とするようになっておりました。私のほうが、議会申合せ事項のときの6番のところの申合せ任期のほうの2年というのを明記いたしましたので、石川議員が御指摘いただいた項目が正しくなっております。失礼いたしました。

○吉田議長 すみません、事務局はそうだそうです。

石川議員。

○石川議員 今の説明で分かりましたので、私も尾崎議員と一緒に考えて、早くこれは常任委員会に移すべきだというふうに思っております。

○吉田議長 その他、意見ございますか。

（「なし」と言う者あり）

○吉田議長 意見がなければこれは常任委員会として……

嘉喜山副議長。

○嘉喜山副議長 私はやはりここに書かれているように、設置されたばかりということもあって、その決めたこと、実際、本当はその場で常任委員会にしてもよかったなと思うので、やはりここはもうちょっと間を置いたほうがいいんじゃないかなと思うんですが。

○吉田議長 尾崎議員。

○尾崎議員 もうこの議会だよりの、議会広報ですか、これの発行についてはもう今後継続的にやるということがもう決まっておりますので、それを考えたらやっぱりこれは常任委員会に切り替えるべきではないかと思えます。

○吉田議長 という意見がございますが。

一つの折衷案として、すみません、常任委員会へ向けて設置をしていくという方向の中で、少し、タイムスケジュールもあるでしょうから、時期を明確に決めて、例えば12月なのか9月定例なのか、その辺をめぐりに常任委員会へということで、タイムスケジュールを決めていきますかね。9月なのか12月なのか、6月は多分不可能、難しいと思いますので、9月パターンと12月パターンで、少しその辺はもんでいきたいと思えます。

これは議運のほうでもんでよろしんですかね。いいですか。

（「はい」と言う者あり）

○吉田議長 1番については継続で審議していきますということです。

続いて、2番については、これは先ほどもう確認を取りましたので、これはよろしいですよ
ね。よろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 3番、関連質問の取扱いについてということで、ここについては、どうですかね。関連質問について、いろいろと、答弁の可否にもよりますけども、議長判断ということで今まで来ているんですが、ここについてはどうでしょうか。通告制が採用されておまして、通告にない質問が多数出されると時間管理が難しくなってくると、議会のスムーズな運営ということなんですが、ここについては、どうですかね、関連質問については私のほうで制限を加えさせていただいてもよろしいのでしょうか。今、このままのとおりでよろしいのでしょうか。

意見があればどうぞ。

原田議員。

○原田議員 ここに書いてあるとおり、もう議長の判断でいいと思います。

○吉田議長 金繁議員。

○金繁議員 この前も意見として述べさせていただいたんですが、私たち全員で前期、視察に、議会活性化で行かせていただいた北海道福島町では、関連質問は原則認めると。海のもの山のものというぐらい違うときには認めないけれどもということでした。ぜひ、議会活性化、議会改革を所信表明に議長も入れられていますので、この関連質問の範囲については、できるだけ広くお考えになって、判断していただけたらという希望を述べさせていただきます。よろしくお願ひします。

○吉田議長 議員の一般質問ですから、できるだけそれはしたいんですけど、なかなかこう難しい面がありましてね、議員によっては素直に分かりましたと言ってくる議員もおりますし、制止を無視してされる方もいますので、このジャッジが非常に本当難しいんです。これはね、議員の中で決めていただければ僕はいいと思うんですね。ある面では。例えば本当の関連質問、難しいですよ、関連あると言われればもうそれまでですけども、ここは少しね、議長判断というのは、私もすみません、新人議長でございますのでなかなか判断のしづらいところがあって、あの人には制止したけどこの人に制止しないとか、そういう不平不満が出るのは私、大嫌いですから、そこはちょっとね、議員間でもんでいただきたいと。あまりにもひどいというのは、それはもうジャッジして止めますけど、どこまでがこれ関連しているかどうかのジャッジは本当に難しいんですね。

どうですかね、その辺の範囲は、もし差し支えなければ皆さんの意見をまとめていただいて、私はそれに従って運営していきますので、少しこれも議運かどっかでもんでいただくような形でよろしいですか。大体の目安で構わないんで。そうすれば不公平感はなくなると思うんですね。

金繁議員。

○金繁議員 分かりました。そこで提案なんですけれども、ぜひ福島町の議会の様子を事務局にちょっと研究していただいて、調査していただいて、どの程度認めているかっていうね、ある程度の基準が出てくると思うんですよ、主観ではなく。ですので、ぜひ調査をしていただいたらどうでしょうか。

○吉田議長 それも一つの参考意見として、まとめさせていただいて、少し議運のほうでちょっともんでいただければと思います。よろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 3番については以上です。

それから4番目、一般質問答弁書の議員への事前配付についてということで、ここはメリット・デメリットいろいろあると思います。一つのメリットとしては議論の質の向上、これを図ることが可能なので、そこはすごくいいのかなというふうに思いますし、時間の節約とか、議

員のほうで準備がしやすいというふうなところがあるかと思います。

ただ、デメリットとしては、予定調和になりやすいというか、何ていうんですかね、やり取りが何か不自然な感じになったり、再質問の自由度が下がる可能性もあるので、ここは大いに議論をしていただいて、どうするのか、ここは決めていただければと思います。

金繁議員。

○金繁議員 ここに書いてあるのはデメリットのほうがかかれてあるんですけど、一方で、あつメリットも書いてあるんですけども、やっぱり一番大きなメリットは、より具体的な解決に結びつきやすくなると、町民の福祉につながるという点だと思います。ぜひこれも、新人議員さんも入ったばかりですので、今後、視察とか研究を議会全体でしていったらどうかと思うんですけども、提案です。

○吉田議長 という、今、金繁議員からの提案がありました。

これも、この事項についてはじゃあ議運で少しもんで、結論出していきますか。それでよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 すみません、一応そういう形を取りたいと思います。

5番、予算決算などの委員会付託についてということで、ここについての意見をお願いいたします。

何か意見ございますかね。

嘉喜山副議長。

○嘉喜山副議長 3番、4番とも、やっぱり同じような関連性があるので、これも議運でちょっともんだほうがいいんじゃないかなと私は思います。

○吉田議長 という意見が出ましたが、いかがいたしましょうか。

はい、石川議員。

○石川議員 今5番ですよ。

○吉田議長 5番です。

○石川議員 元に戻って3番、4番、また……

○吉田議長 いやいや、3番、よく聞いてください、3番、4番と関連があるので5番も含めて、これも委託したいということです。

石川議員。

○石川議員 3番、4番と、5番は全然違うと思いますけど。

○吉田議長 話をよく聞いてください。3番、4番と同様に、議運のほうに、要するに付託をしたいと。よく聞いてください。

(発言する者あり)

○吉田議長 いや、そうやって言ったでしょう、今。よく聞いてくださいね。注意しておきます。一応5番よろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 これも議運のほうでちょっと付託をしていただければと思います。

6番、請願の提出期限の前倒しについて。

ここは議論で、定例議会の10日前前後となっているのが今の請願、請願ですね、定例会初日を含め7日前というのが要するに請願になります。ここについて、前倒しについてということで、これも毎回出てくるんですけども、これについてはいかがでしょうか。

金繁議員。

○金繁議員 この件は私が言ったと思うんですけど、ほかの議会の現状についての調査はどうなりましたでしょうか。

○吉田議長 これも提出が一応出ております。おおむね、ばらばらではあるんですけども、定例会

初日の1週間前までとか、おおよそ10日前後っていうのが大体平均ですかね。これも後で、もし一覧の、期限一覧が必要であれば。配付できますか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 出ております。大体10日前後ぐらいの形です。中にはちょっと早いところも、ぎりぎりまでというところもありますけども。

金繁議員。

○金繁議員 まずその調査の結果を共有してください。それからの議論だと思いますので。

○吉田議長 分かりました。これは資料として載せます。その上で再度検討していくということによってよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 ほかに意見ございますか。

じゃあ6番についてもまず資料を提出しますので、それから考えていくということをお願いします。

それから7番、旧姓や通称使用の取扱いについてということで、これも議論を、皆さんのほうで意見を出してほしいんですけども。

石川議員。

○石川議員 これはもう届出制にしないと、法的に、多分まずいと思いますよ、前回話したとおり。これ早く届出制に改正するべきだという考え方です。

○吉田議長 ほかに。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 これはじゃあ届出制に随時していくように、これタイムスケジュールはどんな感じで制定できる。これは全協での承認でオーケー。

(「オーケー」と言う者あり)

○吉田議長 ですか。じゃあこの場で。

(発言する者あり)

○吉田議長 そうか、基準を改正しなきゃまずいんで、ということなんで。

(発言する者あり)

○石川議員 ここで届出制ということで、全員協議会で決めて、基準を変えていくということによってよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 よろしいですね。全会一致ということでそういうふうにしていきます。

8番、全体的・構造的な理解をするような勉強会についてということで、これは。何か意見ありますか。

嘉喜山副議長。

○嘉喜山副議長 これ言われたのは、まあいうたら全体を把握できるような勉強の機会を設けろっていうことですね。で、具体的に、じゃあ、講師とか呼んでするという意味でしょうか。それとも、自分らでやるということ。

○吉田議長 金繁議員。

○金繁議員 ありがとうございます。幾つかパターンがあると思ひまして、一つは今、副議長が言われた2つのパターンがあると思ひます。専門家を呼ぶ、もしくは自分たちの勉強会。過去においては愛南町議会でも、何か事務局長が、時間外になるんですけど、議員さんの自宅で、そこに議員さんみんなが集まって勉強会をして、それをあるときはA議員の自宅で、あるときはB議員の自宅でっていう感じで、持ち回りでずっとやっていたっていうような時代もあったんですけど、今そんなことは許されないでしょうから、そういうのではなくても、やっぱりこの内部での勉強会っていうのも一つあると思ひます。

それは議会としてやるか、それとも有志でやるかっていう方法もあると思うんですけど、それも一つだと思います。

ただ、私が念頭に置いていたのは、ほかの町、例えば松山市とかですと、もう2日間にわたって、各課長さんたちが、もうこんな膨大な資料を持ってきて、総合計画との関連性とかね、もう本当に全体的な、憲法的な位置づけである総合計画から各課のやっている仕事についてまで説明をしてくれて、質問ができるという勉強会をされているそうで、やっぱり勉強会ってというのは、今、今日も初めての議会、本会議に向けての説明がありましたけど、総合計画さえやっぱり分からないですよ。

なので、そういう勉強会をしてもらえるっていうのはひとつ大きいのかなという気はします。課長さんたちの負担になるので、執行部との調整が必要、してもらわないといけなくなるんですけど、それも一つ考えていただけたらなというのはあります。

それと一つは、ちょっと戻りますけど、持ち回りで事務局長さんにやってもらっていたって、この当時の話を聞くと、それは地方自治法についての勉強会だったそうです。本当に地方自治法の勉強っていうのもなかなか1人では飲み込みにくいものだと思うので、それを議会としてやるか、それとも有志でやるかっていうのは、ぜひやったほうがいいんじゃないかなと思ってます。

○吉田議長 という意見ですが、これはこの場で……

金繁議員。

○金繁議員 補足しますと、なぜこの発言をしたかといいますと、町民の方たちから、勉強会をしたほうがいいんじゃないかっていう、特にその元行政の職員だった方たちから御指摘とかアドバイスを複数受けたことがありまして、提案させていただきました。

以上です。

○吉田議長 ほかに何か意見はございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 これもじゃあ継続してという形で、これ政務調査費なんかの関係も出てくるんですかね。出てきますか。

金繁議員。

○金繁議員 ありがとうございます。まさにそこも関連はありますね、勉強に関しては。はい。

○吉田議長 そうしますとあれですかね、これも議運でちょっともんでいただいて、という形よろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 じゃあ8番についてはそうします。

じゃあ9番、もう休憩なしでそのままいってもよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 じゃあそのままいきます。

9番、委員会など会場へのパソコンなどの持込みについてということで、議場に私的なパソコンを持ち込みたいという要望等々がありますものですから、これについては今回、審議の対象にしました。これについて何か意見ございますでしょうか。

嘉喜山副議長。

○嘉喜山副議長 ベテランの議員にお聞きしたいんですが、標準の会議規則に比べて、愛南町の議会は厳しくなっておるんですが、これをこのように定めた理由って分かりませんかでしょうか。

(発言する者あり)

○吉田議長 吉村議員、すみません。

じゃあ金繁議員。

○金繁議員 これ、早稲田大学のマニフェスト研究所の中村さんに来ていただいたときに、この規

則自体は相当古いのではないかと、合併したときにつくったようになってはいるけれども、実はもっと前の時代のものを継承してこうなっているんじゃないかというお話がありました。

見たとおりもうかなり古いと思いますので、今の時代の議会のスタンダードの規則に、できればそろえたほうがいいのではないかと思います。議会改革、活性化するという意味からも、これに限らず規則自体かなり古いところがあるので、この102条に限らず、議運なりでしっかり見直したほうがよいのではないかと、議会活性化の面からも、と思います。

以上です。

○吉田議長 嘉喜山副議長。

○嘉喜山副議長 ということは、この会議規則に限らず、私は分かっていますが、合併当時ほぼ旧町村の条例・規則を踏襲したわけなので、そういったほかの規則らも含めて、何らかの会議の中で見直しするという意味でいいですか。

○吉田議長 金繁議員の今の意見を踏まえて、これも議運で少しもんだ形でもよろしいでしょうかね。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 じゃあそういう形を取りたいと思います。

最後、10番、ハラスメントに対する客観的な相談窓口についてということで、ここについては機微な問題でもあるんですが、ここについては早急に、現在、県議長会に相談中であることも含めて、このまま議運で少しもんでいただきながら早めに案を提出できるようにしたいと、これは、ここは考えておりますが、これについてはいかがでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○吉田議長 ここについては継続審議として、議運のほうで少し話をさせていただいて、できるだけ早く、これについては結論を出していきたいというふうに考えております。

以上、事務局、議会運営についての確認事項については以上でよろしいでしょうか。

その他、何かございますでしょうか。

金繁議員。

○金繁議員 前期からの引継ぎであるかと思うんですけど、あのキーボードを、これにキーボードをつけてほしいという要望を出していて、引継ぎされているかと思うんですけど、その後どうなったかなというのをお聞きしたいです。

○吉田議長 事務局。

○土居事務局長 はい、私のほうからお答えします。

キーボードにつきましては、引継ぎのほうは受けております。広報特別委員会の委員の皆様、一応、キーボードのほうを対応できるように今そろえております。

現状は以上です。

○吉田議長 よろしいですか。

金繁議員。

○金繁議員 広報特別委員会のメンバーだけでいいんですかね。ほかの議員さんはよろしいんでしょうか。議長、副議長はよろしいんですか。

○吉田議長 つけてもらえるんだったら我々も。私も入っているっちゃあ入っているか。

(発言する者あり)

○吉田議長 どうでしょうか、じゃあ、別にこれは予算は大丈夫なんですか。予算ないの。今はない。

(発言する者あり)

○吉田議長 前、希望は取っていませんでした。

(発言する者あり)

○吉田議長 すみません、前回、ここで議論をして、広報特別委員会だけになったという経緯はあ

りますかね。私もちょっと記憶には。

(発言する者あり)

○吉田議長 本多さん、本多前局長、すみません。前期。

(発言する者あり)

○吉田議長 ありがとうございます。

すみません、以上だったんですが、今後その他、もし必要な方がいたら、次回少しあれですかね。

石川議員。

○石川議員 それもう決まってるんだったらもう予算化されておるんでしょう。

○吉田議長 特別委員会についてはですね。

○石川議員 特別委員会については。もう買うとるの。ほかに新しい人も入っておるので。みんな入っとるんか、そうか、特別。

○吉田議長 もし今後、今後は検討課題にしますかね。広報についてはじゃあ配付をすると。それ以外の方については、今後、配付するかどうか、予算取りも必要になりますので、はい。検討していくようにします。しますでいいの。いいですか、はい。ということです。

その他、ほかにありますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 なければ、ここについては終了いたします。

それでは3番、議員派遣について、事務局の説明をお願いいたします。

○土居事務局長 議員派遣につきまして、議会資料の2をお開きください。

現在予定しております議員派遣につきまして、8月8日、金曜日に松山市で開催予定の愛媛県町村議会議長会研修、こちらにつきましては、一般社団法人地方公共団体政策支援機構の長内様ですかね、と弁護士の先生の方を講師に研修会に参加予定としております。

こちらにつきましては、講師の方への質問の取りまとめにつきましては、6月17日、正午を締切りとさせていただこうと思っております。質問のある方は議会事務局のほうへ御提出をお願いします。6月17日の正午を締切りとしております。

あと、もう1件につきましては、現在調整しておりましたが、男女共同参画関連の研修といたしまして、ハラスメント防止研修のほうを、町の執行部のほうと調整しまして、開催予定日のほうを6月23日、月曜日、会場は現在皆さんがおられる役場3階大会議室を予定しております。こちらにつきましては、執行部側と議員側の調整が必要ですので、開催時間は現在調整しております。分かり次第、皆様にお知らせすることとしております。

以上2件を6月定例会で議員派遣の予定としております。

以上です。

○吉田議長 何か質問ございますか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 大丈夫ですかね。議員派遣については以上です。

その他でございますが、事務局の説明をお願いいたします。

○土居事務局長 その他といたしまして、議員の請負状況等の報告について、議会資料の3に記しております。毎年度お願いしているところでございますが、愛南町議会議員の請負の状況の公表に関する条例及び施行規程によりまして、令和6年度の御報告をお願いいたします。提出期限は6月1日から6月30日までとしております。提出物については、様式第1号の請負状況等の報告書となっております。提出方法は事務局へ持参、または議会事務局のメールのほうへ送信をお願いいたします。

以上です。

○吉田議長 何か質問ございますでしょうか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 ないですか。その他、全体で何かございますでしょうか。

(「なし」と言う者あり)

○吉田議長 よろしいですか。長時間にわたりました、休憩時間も取らずに御審議ありがとうございました。一応これで全員協議会は終了にいたします。

○嘉喜山副議長 長時間にわたりましたお疲れさまでした。
議長、副議長で最初の協議会だったわけですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

議長